

特 233

28

和十一年六月三十日

モラロヂー教育に關する基礎的重要書類

道徳科學研究所



始



緒言

一、本書はモラロヂー教育の本質、内容并に具體的方法を開示せる所の重要書類なり

故に自らモラロヂー教育を受けむとするもの并に一族知人に受けさせむとするもの、必讀の書なり

昭和十一年六月二十四日モラロヂー研究所創立十年記念式及びモラロヂー專攻塾創立一年記念式の日識



特233
28



モラロヂー教育に關する基礎的重要書類目次

第一條 道德科學專攻塾規則本科別科生徒募集.....一

第二條 モラロヂー專攻塾の特色.....三

第三條 昭和十一年一月三十一日道德科學專攻塾本科の教育方針に關する塾長の御講話同年四月一日新入本科生に對して再講.....一四

第四條 昭和十一年四月一日道德科學專攻塾始業式に於ける塾長の御講話の概要.....二五

第五條 すべての學問上に於ける基礎學Fundamental Learningに就きての塾長の御講話.....三

第六條 異端方便の教育法と聖人正統の教育法.....三七

第七條 昭和十一年五月八日訓示結論.....四〇

第八條 昭和十一年四月二十四日塾長御講話.....四三

目次

第九條 道德科學研究所と道德科學教育昭和九年八月三十日道德科學研究所編纂…………… 四

第十條 昭和十年十一月十日午前閣總理大臣内大臣海軍大將子爵齋藤實閣

下御臨塾の御挨拶…………… 一〇〇

第十一條 聖人正統の教育たるモラロヂー教育の原理と現今一般に行はるる

教育の原理との區別…………… 一〇四

第一條 道德科學專攻塾規則 本科別科生徒募集

- (一) 本塾は千葉縣東葛飾郡小金町大勝山道德科學研究所の隣地に在り。而して常磐線北小金驛より同研究所并に本塾第一門まで東南十町二十二間、第一門より第二門まで六町二十間、第二門より研究所の講堂正門まで四町十間、すべて道路平坦、上野驛より四十二分、東京より道德科學研究所講堂玄關まで自動車直通。
- (二) 入塾者諸君の荷物は北小金驛揚げ配達附に願ひ上げたし。(壹箇拾錢)
- (三) 今回の第三回本科生は昭和十二年四月一日より入塾を許し、即日授業を開始す。今回募集の別科は第四期に當り九月一日入塾、十二月十五日卒業の事。今後の分は本科は毎年四月一日入塾を許し、別科は毎年四月、九月二回募集す。
- (四) 專攻塾入塾申込所

千葉縣東葛飾郡小金町

道德科學專攻塾

電話 小金七番
振替口座東京八二三九九番

道德科學專攻塾 (The College of Moralogy) 本科規則

二

第一條 道德科學研究所は之を研究部、開發部の二部に分ち、而して從來研究部に於ては夙に助手を研究生として養成し、開發部に於てはモラロヂー講演會、講習會を開きて臨時的に社會教育を行ひ來たりしが、今回其内容を擴張して定期性を有する學校教育の端緒を開く事に決し、私立學校令によりて茲に當道德科學專攻塾を開設す。

第二條 當專攻塾は正式の中等教育を受けたるもの、中學校第四學年を修了せるもの若くは右兩者と同等以上の學力あるものに就き學科試験を用ひず入塾せしむ。但し其身分、身許、思想等に就きては詳に之を詮衡す、而して其退塾は自由とす。當塾に於て學科試験を行はざる理由は本書第九條「道德科學研究所と道德科學教育」の(十一)に詳なり

第三條 日本語若くは英語を解する外國人にして入塾を希望するものには何れの國人を論ぜず入學を許し、日英語何れかの教科書を與へて之を聽講せしむ。但し右は昭和十二年度より開始する豫定なり。

第四條 當專攻塾本科の中、專攻部は修業年限二箇年、高等專攻部は三箇年とし、研究部は修業年限を定めず。但し高等專攻部及び研究部は入塾希望者少數なる時には之を開かず、而して其志望者を道德科學研究所の助手に採用し、以て悠々其學徳の完成を期せしむ。而して其生徒の人員は當專攻塾完成の曉には五組一千名と爲し、毎年大凡二百名乃至三百名を募集す。

第五條 專攻部第一年期にはモラロヂーの要領、英語の實用會話、簿記、タイプライター等主に農工商業上の實生活に必須なる學科を授け、以て有用にして信用ある實際家を養成す。而して其終了者には修了證書及び信認狀 (Letter of Credence, or Testimonial) を授く。而して右一箇年修了後更に一箇年の在塾を望むものをば、其願意を詮衡して在塾を許し、以てモラロヂーの蘊奥を究めしめ、併せて外國語の上達を圖り、他日各自農工商業海外貿易に従事し若くは世界的に進出してあらゆる學問并に實際事業に従事する場合の便に供す。

第六條 本塾高等專攻部に於ては其自修專攻の準備として英語の外、獨逸語、佛蘭西語及び和漢古典等の基礎語學を學ばしめ、且つモラロヂーは勿論、モラロヂー

に本づく政治學、法律學、經濟學、財政學、農工商業經營法等に關する人間實生活の重要原理に關して自由研究を爲さしめ、以て其學德を大成せしむ。而して研究部に於ては右の外ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語、サンスクリット等の内二語以上を兼修せしむ。

第七條 授業は毎年四月に始め翌年三月に終り、普通定課時間は毎日六時間と爲し、土曜日は午後も授業を爲し日曜祭日は休業すれども午前二時間は必要の科目を授くる事あるべし。又暑中五十日間七月十三日盂蘭盆よ正月十日間十二月三十日よ休業し、慕參若くは父母を見舞はむとするものに歸省を許し、歸省者は其日數に應じて歸省中の食費を減じ、舍費は之を減ぜず。而して年中授業を繼續す。但し當學園は林間に在り、避暑の必要なく寧ろ避暑地としての適地なれど、修養の一助として或は暑中に轉地旅行を行ふ事あるべし。

第八條 道德科學研究所の講堂には聖人の教に本づき神壇を設け宇宙根本唯一の神靈、皇祖皇宗の御神靈の御性質及びモラロヂー建設者の精神を記せる碑文を安置す。而して專攻塾の職員及び學生は毎日朝夕必ず之に詣うてて正式禮拜

を行ふものとする。古代の日本、支那の官立大學、足利學校、昌平校の釋典、英國に於けるウェリントン・カレッジ (Wellington College) 其他のウェリントン・カレッジ (Wellington College) 井にチャプレン (Chaplain, 學校專屬牧師) の制度等皆聖人の遺意なり又晨起時、就寢時には各自神壇に向つて自由に禮拜する事とす。

第九條 授業開始入塾の際束脩金參拾圓を納入せしめ、別に授業料として專攻部、高等專攻部共に一箇年金百八拾圓を納入せしめ、研究部は無月謝とす。束脩は聖人の遺法にして師弟の契約を表する聘物なり。而して眞の高等教育には重要な儀禮なり。

第十條 入塾の際モラロヂー教科書代として金參拾五圓を納入せしめ、モラロヂーに關する菊版五千餘頁の印刷物英文一冊を授與す。而して既に教科書の一部分を所持するものは其殘餘のもののみを購入せしむ。此外英語のテキスト數部を求めしむ。

第十一條 全學生を寄宿舎に入寮せしめ、日夜智德一體の教育を行ひ、各人の最高人格を完成せしむ。但し學園附近の京濱地方の人々は其希望により通學を許す事もあるべし。

第十二條 晚餐には人格教育の一助として講師、學生食卓を共にする事あるべし。又時々ディナー (Dinner) を開き内外の名士を招き學生を紹介し且つ食卓を共にして其高説を聴かしむる事あるべし。但し別に之が爲に學生に費用を課せず。

第十三條 寄宿舎に於ては講師、舍監臨席の上、大凡一週二回晚餐後に演習會を開き學生をして講演せしむ。而して塾長以下の講師の講演を行ひ若くは外部名士の講演を乞ふ事もあるべし。

第十四條 夜具、座布團等は各自に携帯せしめ、各自の机は持参に及ばず。食費は物價の高低によりて異なるも目下月金拾五圓ディナー及びオヤツ(茶菓)料を含む、燈火、薪炭、寄宿舎及び炊事場の使用人料其他一切の舍費金五圓共に之を毎月初め前納せしむ。

第十五條 本科生徒は制服、制帽を著用すべし。但し制服のボタン并に帽子の徽章にモラロヂー・カレヂの頭字 M の二字を刻示す。

第十六條 當專攻塾の創立搖籃時代に於ける幹部職員并に主要講師左の如し。
塾長兼講師 (モラロヂー 當) 法學博士 廣池 千九郎

次長兼講師 (モラロヂー 當)

法學士

(東京帝國大學法科大學政治科卒業)

廣池 千英

教監兼講師 (モラロヂー 兼英語擔當)

文學士

(東京帝國大學文學部哲學科卒業)

廣池 利三郎

幹事兼講師 (モラロヂー 當)

中 田 中

幹事兼講師 (モラロヂー 當)

香川 景三郎

講師 (英語 擔當)

バチエラー・オブ・アーツ (Bachelor of Arts) 以上
マスタートーク・オブ・アーツ (Master of Arts) 以上
ドクトル・オブ・アーツ (Doctor of Philosophy) 以上
シカゴ大學 (University of Chicago)

高橋 武市

講師 (英語 擔當)

松浦 興祐

講師 (モラロヂー 兼英語會話)

文學士

(東京帝國大學文學部英吉利文學科卒業)

伯爵 宗武志

英語囑託講師

バチエラー・オブ・アーツ (Bachelor of Arts) ユリカ・カレヂ (Eureka College)

ウエルドン・マコイ (Weldon McCoy)

此外講師及び各方面の職員十數名あれど之を略す。

第十七條 入塾希望者には左記書式の入塾願書、戸籍謄本及び各自毛筆による自筆の履歷書を差出さしむ。但し履歷書中に前在學學校の成績の要領を記入すべし。尙ほ別に肺結核、淋病、トラコーマ、口臭、腋臭其他の皮膚病等を有せざる事を證明する所の醫師の診斷書を添へて差出すべし。

入塾御願

原籍 何々
現住所 何々

姓名

生年月日

私儀御塾規則承知の上本科へ入塾致度此段御願申上候也

年 月 日

右

(但し振假名を附くこと)

本人姓名并に捺印

住所(これは小字にて記すべし)

保護者姓名并に捺印

(紙半紙用)

道德科學專攻塾御中

千葉縣東葛飾郡小金町(電話小金七番)

道德科學研究所
道德科學專攻塾

附記 尙ほ專攻塾の講堂并に圖書館は當分道德科學研究所の講堂并に圖書館を借用す。

道德科學專攻塾 (The College of Moralogy) 別科規則

第一條 獨立に農工商業を經營する各位若くは會社、商店、工場に勤務する各位にして一箇年以上の本科に入學するほどの餘暇を有せざれど、在來舉行の短日間のモラロヂー講習會より以上の教養を受けてモラロヂーの蘊奥を究め、眞に最高品性を完成し、以て永遠の安心、平和及び幸福を得むと欲せらるるものは當別科に入學せらるべし。

第二條 入學者の資格は學力の程度、男女の區別、年齢、其他職業の如何を論ぜず、すべて無試験を以て入學を許す。但し身許、思想的傾向は詳に之を査閱す。又女子は從來モラロヂーに縁故ある家の人に限る。

第三條 當別科は從來當研究所にて行ひ來たれる所のモラロヂー講習會の延長なるを以て入塾者の人員を限らず、大凡一箇年一千名養成の目的の下に之を二回若くは三回に分つて入塾せしめ、其修業日數を滿三箇月半と爲し、毎日五時間モラロヂーの講義を聴講せしむ。而して希望者は之を寄宿舎に入寮せしめ、慈悲

至誠、眞實の父母にも勝る塾長以下各講師指導の下に懇切、丁寧、至誠を含める教養を受けしめ以て最高品性の訓練を爲さしむ。

第四條 希望者には本科學生の英語會話、簿記、タイプライター、珠算等の時間に出席を許すべし。但し之が爲に別に月謝を徴收せず

第五條 入塾者は束脩金五拾圓を納入せしむるに止め別に授業料を徴收せず。又食費金拾五圓、舍費金五圓を毎月初めに納入せしめ、又教科書代金參拾貳圓を納入せしめモラロヂーに關する菊版五千頁に近き日本文印刷物を授與す、但し豫め教科書を所有するものは右の購入を要せず、其殘餘の印刷物のみを購入せしむ。而して別に夜具并に座布團の携帶を乞ふ。さて茲に一言致したき事は別科御入學の諸君は在塾期間短ければ夜具并に座布團をば當塾より無料にて貸附致す筈なりしも、それは却つて不都合を生ずべしとの説に本づきて斯くの如く各自御携行を乞ふ事とせり。此點御諒察を乞ふ。

第六條 別科の學生は年齢、學歷、身分共に本科學生以上のものあるを以て其待遇に就きては考慮を費したれど、結局群衆生活上已むを得ず兩者平等の待遇を爲す。

第七條 毎週大凡二、三回晚餐後に於て講師臨席の上、演習會を開き學生をして講演せしめ或は塾長以下も講演する事あり。

第八條 卒業の上は修了證書を授與して其信用を社會に向つて證明すべし。

第九條 在塾修業三箇月半を終了後更に在塾を希望するものには之を許す。但し再入塾には新たに束脩金參拾圓を徴收す。又別科より本科へ轉する事をも許すべし。

第十條 家事の係累若くは職務上の要件あるものは在塾三箇月半中幾度歸省するも苦しからず、又一箇月づつ二、三回に分つて受業するも苦しからず。但し束脩金五拾圓は初回到納入するを要す。

第十一條 別科入塾希望者は入塾願書、戸籍謄本、履歷書の三種を差出し、更に別に肺結核、淋病、トラコーマ、口臭、腋臭、其他の皮膚病等を有せざる事を證明する所の醫師の診斷書を添へて差出すべし。其願書の雛形は左の如し。但し會社其他に勤務する諸君の履歷書には勤務先を記入せられたし。

入塾御願

原籍 何々
現住所 何々

姓名

生年月日

私儀御塾規則承知の上別科へ入塾致度此段御願申上候也

年 月 日

右

(但し振假名を附くること)

本人姓名并に捺印

住所(これは小字にて記すべし)

保護者姓名并に捺印

道徳科學專攻塾御中

(紙 半 紙 用)

第二條 モラロヂー專攻塾の特色

- (一) 全生徒を寄宿舎に收容して日夜モラロヂーにて人格を造り安全此上なき事。
- (二) 食費、舍費の安き事之に對して食事おいしく且つおやつまで出し、大浴場の快き事。
- (三) 故に生徒は何の費用も入らず、一箇月食費拾五圓、舍費五圓外に本科は束脩參拾圓、月謝拾五圓、別科は束脩五拾圓月謝なし。斯くの如くにして此外には一厘の費用も要らずに大學の實質を有する最高學府を卒業するを得るなり。
- (四) 全面積十餘萬坪皆松、杉の森林にて學園此間に開かる。故に、生徒の健康、體重皆増進し、中には一貫目以上も進みしものあり。(以上)

第三條 昭和十一年一月三十一日道德科學專攻塾本科の

教育方針に關する塾長の御講話 同年四月一日新入
本科生に對して再講

今日は本科の諸君ばかりに將來に於ける此學校の本科の方針に就きて一口御話を致します。皆様は約一年で御歸りにならうと云ふ御方もあり、二年で御歸りにならうと云ふ御方もありまじやう。又其先は一體どう爲るかとお懸念なさる御方もありまじやう。それは尤もな事で入學の時は將來の事を御話ししても判らんから詳しくは申しませんが、もう今日では約一箇年經過したので御話し致します。

さて此專攻塾の本科は專攻部と高等專攻部とに分つてあります。即ち專攻部は高等學校に當り、高等專攻部は大學に當り、他の私立大學では此專攻部が其豫科に當るのです。而して其高等專攻部の上に大學院もあるのです。そこで先づ外國語の事から御話ししますが、第一外國語は世界的通用語としての英語であります。さて外國語は會話を主とするので會話は世界中にて尤も進歩せる本塾の外國語教授法に

よれば一箇年間に大變な進歩を致しますので、之を二箇年間やつて專攻部を卒業すれば會話の外、商業學、商業地理の大要より、商業作文、商業電文も出来るのであります。世には外國語の本を読む人は多いが實際に會話の出来る人は少ないのであります。實際上の商工業には讀むより話す方と書く方が必要である。而して今日諸君が入學せられてより約一箇年に爲りますが、其成績は極めて良好にして本塾外國語教育法の優秀と本塾英語の先生方の非凡な學力と親切とは明かに諸君の胸に御分りに爲つて居る事と信ず。そこで今日我が日本の商工業は外國より迫害を蒙つて居れど併し日本の商品はあらゆる各國の商品より優れて居るので、今日では今まで日本人の知らなかつた所、又行かなかつた所のアフリカとか南米とか南洋とかからも澤山注文が来るのである。そこで道德があつて外國語が自由に話せる人があつたならば、外國に向つて商工業を發展させる事は容易な事であり、然るにブラジルに於ても最初は日本の移民を歓迎したれど、日本人の道德心が乏しい爲に遂に今日は排斥されるに至つたのであります。そこで何れに行くとしても第一道德が必要であります。道德が十分あつて外國語が十分に出来れば、就職の口

は直ちに得らるるのです。會員の中で既に海外に突進して居る人もあり、これから本塾を卒業して海外事業を經營する人もあります。サラリーマン希望者は其處に入る事も出来る。資本なども何でもない事である。世の學生は自分の實力と徳とを養へば何でも出来る。と云ふ人生の大本を知らぬのである。即ち現代の學生は専門學校や大學を卒業しても一つの外國語も自由に話せぬものが澤山ある。且つ概して道徳心に乏しくして信用が出来ぬ。就職の困難は當然の結果である。然るに本塾にてモラロヂーと英語とを十分にやつて社會に出でたならば就職も結婚も事業經營も實に容易な事であります。明後年頃、貿易見本館を當モラロヂー學園の中に拵へて世界の貿易品の見本を置くつもりである。最初は日本品を置き、順次に世界の輸入品を置く。さうなると各國の大使、公使、領事、牧師などを招待し、且つ外國視察團をも呼びよせて貿易見本館を見せ、而して模様によつては即賣館を拵へて其場で直ぐ賣る事にするつもりであります。御覽の如く當學園は十餘萬坪の森林ですから、外人を宿泊させるホテルを建てる事も容易です。そこでいづれ此處は商工業の世界の中心になりましたやう。當學園は宗教の本山には爲らぬが、世界の農工商業

の本山に爲ります。而して語學が出来てもモラロヂーの心が無ければつまらぬ。語學の出来る者は道徳が無い。ホテルの案内者や宿屋の案内者には英語の出来るものはあるが道徳が無い。之に道徳を入れねばならぬ。今年六月までに大阪にモラロヂーの大講堂を作る豫定である。さう云ふ事があるので今年中に見本館を建てる事は出来ない。其上モラロヂーの原典の英譯四千頁もあらうが其完成が昭和十二年頃ですから貿易見本館の建設は大凡十三、四年頃になりましやう。其次に大學の方即ち高等專攻部の方は英語はやはり毎日一時間づつ、主に會話を練習せしむるが、他校の如くに文學物などはやらせない。次に大學の一年級には獨逸語を第二外國語とし、佛蘭西語を第三外國語と致し、而して大學初年級には獨逸語を英語の外に毎日三時間づつやらせ、次に二箇年間は毎日二時間づつやらせ、次に佛蘭西語は初年は無し、二年、三年は毎日一時間づつ、主として會話を教ふる方針であります。そこで右の如く英、獨、佛三箇國語をやれば、英語で話が出来て獨逸語の本が讀めて佛蘭西語でも話が出来るやうになる。本塾獨特の外國語教育によれば三つ共必ず成功致します。此外南洋に行くものにはマレイ語なども教へます。是れは三箇月も

やれば出來ます。

次に大學院に當る處に進むものにはギリシア語、ラテン語、ヘブライ語等を學ばせ
ます。而して大學院に進む人にて萬一月謝が出せぬとか食費に困るとか云ふ人
は月謝も免じ食事も支給する。且又此處のモラロヂー圖書館は學者に爲れるやう
に造つてありますから、末は愈々楽しみがあります。生徒が勉強したいと云ふ必要の
本は何程でも買つて上げます。今でも必要の本は大抵揃うて居る。政治でも法律で
も哲學でも經濟でも世界第一流の本は英、獨、佛を始め日本、支那等皆一通り揃うて
居る。世の學生は二流、三流の異端の本ばかりを讀むから、つまらないものに爲り了
るのです。私は若い時からすべて書物の註釋は讀まぬ。今モラロヂー圖書館に掲げ
てある通り『以經說經』即ち歸納法にて勉強したから成功したのですが、外國語の
不完全な爲にいろ／＼困難をしたから、今度諸君には十二分に外國語を學ばする
事にしたのです。

さて元に戻つて圖書館の話のつづきを致しますが、只今モラロヂー圖書館にて支
那の本は詩と文章とは足りないが、他の本は皆揃うて居る。歐米の本もさうなつて
居る。さう云ふ圖書館であるから、あなた方が研究したいと云ふならば十分の便利
がある。其上これから何程でも必要な本を買つて上げる計畫を致して居ります。私
は諸君が專攻部、高等專攻部を五箇年やつて、あと大學院に當る研究部にて三箇年
も落ち著いてしつかり道徳的に勉強して立派な人間になつて社會に立つて下さ
る人の出來る事を希望して居ります。さうなれば其人々は方に世界を壓倒する事
が出來ます。

それから次に本塾に於ける外國語以外の學科はどうするかと云へば、少しく其學
校の組織を説かねば分らぬ。即ち今の世界の大學は大凡文科、法科、經濟科、商科、理科
工科、農林科、醫科等に分れて、其一つをやるのを單科大學と云ひ、いくつも寄つて居
るのを綜合大學と云ひ、單科大學にては大體其長を學長と云ひ、綜合大學にては總
長と云ふ。此モラロヂー專攻塾は先づ單科大學の實質を有して居るので、將來モラ
ロヂー大學と爲つてもやはり初は單科大學である。

そこで此モラロヂー專攻塾の高等專攻部の外國語以外の學科はモラロヂーは勿
論の事ですが、此外に政治學、法律學、經濟學、財政學、商業學等を含むの三科目を本科とし、社會學、世

二〇

界歴史、一般哲學等を隨意科と致し、主として國家の基礎と爲る所の確實偉大なる農工商業家を養成し、併せて優秀なる學者、政治家、外交官、新聞記者、教育家をも出す計畫であります。そこでモラロヂーは精神科學及び自然科學の習得及び活用上に於ける精神的基礎學であつて、すべての學問にも職業にも必要であるが、實業家必ずしも農工商に限らず、虚業家に對して云ふとしては特に此基礎學たるモラロヂーの上に政治學、法律學、經濟學の三科目を渾一融合して習得することによつて始めて其完全なる人格パーソナリティはキャラクターの外に學問、智識、財産、權利等を包括する謂いなりが出来るのであります。モラロヂーさへ眞に理解が出来、實行が出来、るやうになれば、すべての學問が皆其頭の中に融合して働くやうに爲りますから偉大な人格に成れますのです。然るに現代の教育は全く斯う云ふ完全な組織に爲つて居らぬのであります。基礎學の無い頭の中に異端利己主義の學説を入るものですから、全く統一が取れず學説の判断にも處世の上にも標準が無く、泛々ボカク漂々たる人間のみが生産さるるのです。それ故に眞に實際に役立つ人物が出来ないのであります。當專攻塾の優越性は學説の判断にも處世の方法にも一定の標準を有

して居る點にあるのです。且つ其教授法に於ても現代の専門教育は全く誤つて居るのであります。當專攻塾の教授法は世界獨歩のものであります。即ち其教授法は他の大學の如き注入法、試験法の二つによらずして前記の卓越したモラロヂー圖書館を利用して指導法、自修法の二つによるのであります。指導法とはモラロヂーの根本原理によつて政治學でも法律學でも經濟學でも其大體を指導して開發するので、而して之によりて生徒は圖書館にて自修するので、そこで優秀な青年や勉強する青年は忽ちにえらい人に爲ります。仍つて本塾の教育をば聖人の御示しに爲つた智徳一體の出藍教育と申すのであります。即ち藍は青アヲより出でて青アヲより青アヲしと云ふ御教により先生よりえらい人物を造るのが其目的であります。そこで此モラロヂー專攻塾の高等專攻部即ち大學部にては大體の指導は私がする細かい指導はそれぞれ専門の先生方がするので、而して後、あなた方が自發的に勉強するので、それにはすべて語學が本である。英、獨、佛語が必要で是れが出来た上に勉強すれば天下獨歩であります。

さて政治學でも法律學でも經濟學でも皆其根本原理はモラロヂーと同じく神様

の御心から出て居るのですから、昔は政治も法律も經濟も哲學も宗教も道德も藝術、醫術、天文、地理等も皆同一原理にて動いたものでありました。即ちそれは何れも天地の法則、人類進化の法則の各方面に現はれたものでありました。而して是れは各民族の歴史に明かであります。然るに人間の利己的本能の現はれが盛んに爲つた爲にすべての學問、藝術が天地の大法則即ち人類進化の大法則に反するやうに爲つて、すべての原理が崩れてバラ／＼に爲り、不道德、不合理に爲り次に今日の有様となつたので、學問をするのは世を益し己を利する爲でなくして學問の爲に學問をすると云ふやうな無益な事をするやうに爲つたのです。

こんな風ですべての教育は生徒の幸福實現の爲に施すのでなく教育家の利益、名譽の爲にするやうになつたので、試験と宿題とスポーツとにて目下全世界の少年少女、青年處女は半死の状態に在るのです。

さて學問と申すものは必ず先生に就いて一々習はなければならぬものは語學と數學とであつて、此二つは精神科學及び自然科學の習得并に活用上に於ける方法的基礎學であるのです。そこで此二つの基礎學は精神的基礎學たるモラロジーと

同じくどうしても先生に就いて學ばなければ分りませぬが、あとの學問は獨學でも出來ます。故に當塾にては他の學校の如くに枝葉の學問に力を入れ其教授法に注入法のみを用ひ而して試験にて生徒を苦しむる事は致しませぬ。そこで本塾は入學試験をも卒業試験をも進級試験をも行はず、毎日の成績にて生徒各自の精神を反省させ、すべてを銳意専心實學に向つて大成の出來るやうに指導して進み必ず生徒諸君の前途に光明あらしむる筈であります。斯くて數年後に至れば本塾の聲價は必ず社會に認められ本塾を卒業せる人々は他の學校を卒業せるものよりは信用があつて事業の上にも善い人と取引が出來、好い御客が出來て必ず大いに其事業が繁榮するに至る事は明かに今日より保證の出來ることでありませぬ。只今は專攻塾と申せば世人は輕蔑して居れど、あなた方が卒業する頃には天下に威名赫々たる學校と爲るのです。

人間には先見の明がなければいけない。今日創業の時代で世人に知られぬ學校でも其實質が善良であれば四、五年後には大變なものに爲るが、今日盛大な學校であつても既に時代に合はぬものは世に捨てられます。若いあなた方は今日私の御話

しする事を忘れないで落著いて御勉強になつたならば屹度えらく爲ります。そこで當塾は單科大學の性質を有して居つて世界各國の國家組織の要素と爲る所の農工商業家即ち實業家を造るのが其目的であります。而して此實業と云ふ語は教育家をも眞面目な人間を造るのが其目的であります。而して此實業と云ふ語は虚業即ち藝者、待合、映畫、興行、競馬、相場等に對する言葉であつて、モラロヂーは主として此實業家を造る新科學であります。

次に一言本塾の別科の事を申し上げますが、別科は斯う云ふやうな大學組織でなくて僅かに三箇月半にて卒業する講習會の長いものであります。本科に入る御閑暇の無い實業家を入れてモラロヂーの修養をやつていただく筈にて昭和十年に卒業せる御方だけでも既に六百餘人に達し、何れも盛んに農工商業の三方面に働いて下さつて居ります。

(以上要點筆記)

第四條 昭和十一年四月一日道德科學專攻塾始業式に於

ける塾長の御講話の概要

本日は當塾の始業式の日であります。それに就いて一言根本的な事を學生諸君に御注意申し上げて置きたいと存じます。

さて人間の物質生活の-highか低いかと云ふ事は自ら其人間の精神生活の-highか低いかと云ふ事に比例して居るのであります。たとへば、次官よりは大臣が、局長よりは次官が、課長よりは局長の方が大體に於て其精神生活がそれぞれ高く、又財産のあるものゝ方が無いものよりは大體に於て其精神生活が高いのであります。そこで我々が其物質生活を高めるには其精神生活を高める事が大切であり必要であります。此事の分つて居る者は今日の學者、教育家并に一般の識者の中に殆んど一人も無いと云つて誣言でないのであります。

ところが我が天祖天照大神を始め奉り世界の諸聖人は夙に此眞理を御悟りになつて居られ、我々人類の爲に精神生活の法則を定められ眞に物質生活を向上する

方法を教へて下さつたのであります。

然るに此聖人の教が何時の間にか衰へてしまつたのであります。而して是れが今日世界人類全般の物質生活が混迷に陥つた根本原因であります。人口が殖えたとか何とか色々な事が學者や識者などによつて説かれて居りますが、さう云ふ事は皆末の事であります。尤も少しは之に氣づいて居る學者も無いでもないが、併し十分でない。西洋ではドイツのカント、フランスのコムト、イギリスのスペンサー、北アメリカのエマソン、フランクリン、支那では朱子、兩程子、我が國では林道春等が之に當るのであります。

然るに此人々は聖人の教の一部分に自己の意見を加へて發表したのであります。即ち聖人の教をそのまゝ世界の人類に持ち來たして自分自身も行ひ、他人にも行はせようとはしなかつたのであります。却つて聖人の教に自己の利己主義に本づく考を加へて全部之を自己の學說の如くにして發表したのであります。此他宗教の祖師などはこれ以上に自分の説を主に致したのです。即ち宗教の祖師はキリスト教でいへば聖ポロ外二、三人位、佛教では龍樹外十人位を除いては大體無學者

であり、従つて偏狭固陋でキリストや釋迦の教の蔭に居つて自説を主張したのであります。たとへば救世軍の開祖ブリス大將の如きも誠に其人格は立派でありましたが、元來大將は酒屋の小僧で學問が無く、従つて救世軍は今日見らるる如く偏狭固陋であつて、寧ろ社會では厄介視されて居るのであります。是れは決して偶然ではありませぬ。乍併聖人の教は一部分之を實行しても其効果は著しい、我が國でも故濫澤子爵は僅かではあつたが、常に『論語』を愛讀せられて孔子の教の幾分かを實行せられたが爲にあのやうに立派な實業家と爲つたのであります。さて今日は何人も精神生活の法則たる聖人の教を知つて居るものがないのであります。其重大原因は精神科學が其中に聖人の教を含んで居らずして根本的に間違つて居るからであります。

さて精神科學とは政治學、法律學、經濟學、倫理學等で、自然科學とは天文學、地質學、動物學、植物學、礦物學、化學、物理學などであり、前者は人間の精神の産物を科學的に研究するものであり、後者は自然を科學的に研究するものであります。

そこで今日に於ては人間の墮落と進化とは人間の精神生活を導く精神科學の完

全と不完全とによるのであります。今日識者を惱まして居る色々な問題は結局正しい精神科學によつて正しい精神生活を造り出す事によつて解決が出来るのであります。聖人は早くから之を見抜き見透して何でも知つて居られたのであります。そこで現在世界各國の大學で教へて居る學科は自然科學を除いては皆謬つた事を教へて居るのであります。即ちそこで教へて居る精神科學には皆精神生活の根本原理たるべき所の聖人の教が入つて居らぬからであります。

そこで私はモラロヂーと云ふ新精神科學を建設し之によつて聖人の教が何人にも呑み込めるやうに學問的に組み立てたのであります。而して此モラロヂーは聖人の教が何人にも呑み込めるやうに科學的に證明してあるので、之を聞くものが誰も受け入るのであります。之をたとへて云ふならば聖人の教をモラロヂーと云ふ何處の國に於ても通ずる甘い汁の中にたらし込んで教へようとしたのであります。そこで御覽の如くに私は之を社會教育に應用し更に之を學校教育に應用するに至つたのであります。それ故に此專攻塾は聖人の教に本づく正しき精神生活の原理たるモラロヂーによつて立派な、さうして正しい人間を造らうとするの

が其目的であるのです。

さてモラロヂーは昭和二年頃までにはモラルサイエンス (Moral Science) と稱して居りましたが、昭和二年私が鹿澤温泉に滞在中之を英譯して海外に發表するのにはどうしても特殊の術語が必要である事が分つたので、ラテン語とギリシア語とを合せてモラロヂー (Morality) と云ふ新術語を私自ら作つたのであります。私は十分なる外國語の教育を受けなかつたので多大の不便を感じたので當塾では實業家となるにも學者となるにも必要缺くべからざる外國語の教授に特に重きを置き外國語の教授は之を優遇して居るのであります。斯くて當塾では英語は勿論、今後佛蘭西語、獨逸語、ラテン語、ギリシア語等をも順次に教ふる筈であります。

さてモラロヂーは昭和三年に其原典たる論文の印刷が出来たのであるが、其後漸次に新機運が成熟して遂に昭和六年九月大阪毎日新聞社長故本山彦一氏并に故新渡戸博士の御紹介によりて大阪毎日新聞社の講堂で私は大阪の實業家に此モラロヂーの理解と體得との必要を説いたのであります。即ち私は其時主として經濟并に産業を眞に正しく繁榮せしむるには、どうしてもモラロヂーによらねばな

らぬ事を諄々と説いたのであります。大阪の今日に於けるモラロヂーの盛大を致せる根本原因は實に此一舉に胚胎して居るのであります。此時までモラロヂーは僅に京濱の一角のみに存在して居つたのですが此大阪の講演が導火線と爲つて大阪附近は勿論、京都、名古屋、岐阜縣、滋賀縣、三重縣、和歌山縣、山陰、山陽、四國、九州、北國方面にまでモラロヂーが急激に擴がつたのであります。斯くの如くにしてモラロヂーは今後全國的に擴がる事は最早疑ひない事でありませぬ。そこで今日は實力の世の中でありませぬから、實力さへあればどんな出世も出来るのであります。私の如きは學は薄く、財は乏しく、身體は弱かつたのであります。聖人の教によつて眞の實力を養成し今日あるを致したのであります。肉體的には細いが精神的には全世界を救ふべき私の腕は所謂ストロング・アーム (Strong Arm) で全世界の一切の人々を助くる事が出来るのであります。何卒諸君も眞の實力を養つて下さい。此塾では他の學校のやうに試験はありませぬが、併し諸君が今申し上げたやうに眞に聖人の教に本づきて品性を作り外國語の習得に力を盡して實力を養成したならば、就職の如きは全く心配の要らぬ事でありませぬ。併しさうだからと云つてあ

まり熱心に過ぎてはいけません。徐々に而して熱々と倦まず、撓まず、進んで下さい。

(以上)

第五條 すべての學問上に於ける基礎學(Fundamental Learning)に就きての塾長の御講話

(一)現代のすべての學問は、すべて人間の自然の本質ナチュラール エッセンス若くは實質サブスタンス(natural essence or substance)を知らず、即ち先づ人間の天性ネイチャー(Nature)に關して性善説、性惡説などあれど、其何れが正しきかを判断するを得ず。故に人間の教育法并に人間の精神的并に物質的實生活に關する方法に標準なく、如何にすれば善人や賢人を造り得るか、如何にすれば安心、幸福に爲り得べきかを知るを得ず。されば結局種々の異端の説に惑マヤはされて自他の不幸を生ずるに至るのであります。

モラロヂーはすべての學問の習得及び運用に關する精神的基礎學である。故に人間の自然の本質を明かに認知するを得、即ち人間の本性ネイチャーは道德的本能(moral instinct)と自己保存の本能(instinct of self-preservation)一步進めば利己的本能(selish instinct, or instinct of self-interest)と爲る]との二つを含む。故に人間の教育はモラロヂー教育の如き善き教育により其善を助長して惡を抑制すれば幸福の人を生

ずべく、之に反すれば不幸と爲るべく、人間實生活の方法も亦同じく此原理に従つて善を助長すれば幸福に爲る事を明かに確認し得るのである。

(二)次に從來の精神科學は人間の精神[Mind, 此精神はスピリット (Spirit)にあらず]の内容(Contents)を知らず。故に大體當該精神を智と徳との二つに分けて説明するは可なりとするも、所謂教育家は實際の教育上にも之を二つに分けて取扱ふのである。すべての學科にならぬのに今の教育家はさう云カクゴされば偏りたる人間をのみ生じ、或は理智にのみ長ず道徳を含まねばふ事を知らぬと云ふ意味なり。云カクゴされば偏りたる人間をのみ生じ、或は理智にのみ長ずる人か或は人情にのみ厚き人を生じ、情理圓滿でなくして突進衝突する人、退嬰敗北する人をのみ造り、兩者共に不幸に陥るに至る。然るにモラロヂーにては人間の腦の機關の機能は幾つにも分れて居れど、其根本に爲る所の精神は分割の出來ぬものにて、智徳一體、情理融合せるものとしてあります。故に其原理の上より人間の教育法を定むるものなれば、智徳一體、情理圓滿なる完全な人格を造る事を得るのである。

(三)此人間の精神的基礎學たるモラロヂーは今回世界に始めて生じたるものである。從來は只聖人の御教が教訓として存せしのみ。故に一般人は勿論、學者と雖も

人間教育の眞の方法を知るを得ざりき。

(四) 右の如く今日までは人間の天性并に人間の精神の内容の如何を知らざるが故に、人間の社會構成 (the social organization of mankind) の原理が明白でなかつたのである。オーギュスト・コムト (Auguste Comte) の社會學にて聊か社會構成の原理は明かに爲つたれど、所謂聖人正統の教を缺いて居るので社會統制 (Government) の眞の原理と方法とを確定するまでに至らざりき。此故に世人皆聖人正統の御教を疑ひ傳統の觀念なく、國家若くは團體の統一 (Control) と不統一とは何れが利あり、何れが害あるかを知らざるに至らざりき。

聖人の御教は人間が『孜孜』として努力するに在り』と爲つて居るのであります。即ち國民は國の傳統に、子孫は家の傳統に、聖人正統の御教を受けたる人は精神傳統に、一般人は物質生活の傳統奉仕にあるのです。乍併、聖人の御教は其説明が科學的でなかつた爲に、だんく世人に忘れられて今日に至つたのであります。此故に私が聖人の御教を科學的に組織してモラロヂーを建設し以て聖人正統の御教を秩序的に且つ明白に人類に向つて説明するに至つたのであります。

(五) されば當塾の教育はモラロヂーと云ふ人間の精神的基礎學の上に立つて居るのであります。而して此基礎學一つを學べば一切の精神科學は勿論、自然科學の原理も皆明白と爲るのであります。私が今日まで私の専門學たる法律學の外なる政治學、經濟學、財政學、倫理學、教育學、宗教學は勿論、醫學、其他の自然科學の原理應用に就きてすべての人々を指導し得るのは之が爲にて、何人にもモラロヂーを體得すれば、皆若いながら私のやうに爲り得るのであります。

(六) 次に學問の習得及び運用上の方法の基礎學と云ふものもあるので、是れは從來一般に知られたつて居るもので、それは語學と數學とであります。數學の事は姑く後日の説明に譲るが、人間が各國の語學が出来て世界中の書物を読み得、書き得、且つ話を爲し得る力を得れば、其人の能力にもより且つ早い、或いは晩い、年月の相違はあるも、結局自修的に天地のすべての原理即ちすべての天地の法則を知る事を得ます。さうなれば當該生徒中には遂に必ず先生より優るものを生ずるに至るべし。故に當塾の教育をば智德一體出藍の教育と云ふのであります。されば、モラロヂーの教育は勞少くして效多く、實に卓越せる教育で

あります。

昭和十一年四月十日御講話(以上大要筆記)

第六條 異端方便の教育法と聖人正統の教育法

一、甲は天地の真理の一部分若くは數部分を以て人間を造らむとす。故に其結果亦一時的、一部分的成功を齎モタらすに過ぎず。(第七條參照)

一、乙は天地の真理の全部を以て人間を開發救済す。故に全體的、永久的幸福を人間に與へて萬世不朽の家をも生み出すを得るなり。

異端方便の教育法

- (1) エデュケーション(Education) 引き出す
- (2) イミテーション(Imitation) 模倣
- (3) トレーニング(Training) 訓練
- (4) レフォーメーション(Reformation) 矯正
- (5) セルフコントロール(Self-control) 克己
- (6) フェイス(Faith) 信仰(丸呑み)
- (7) エロクエンス(Eloquence) 辯論して人に聞かせる事(實行なく口舌にて空しく人に説く事なり)
- (8) エクスペリエンス(Experience) 經驗

第六條 異端方便の教育法と聖人正統の教育法

異端の教育法は右の八つの内の若干を以て人を教育す。

- 聖人正統の教育法
- (1) エンライトメント(Enlightenment) : 指導階級者自ら先づ神の智慧の光を體得し以て人心を開發す
 - (2) サルヴェーション(Salvation) : 指導階級者自ら先づ神の慈悲の光を體得し以て人心を救濟す
- 神の智には道德を含み道德には智を含む故に究竟眞の開発と救濟とは同一なり
- 尙ほ此開發救濟の二つの中に前の(1)から(8)までを含み更に一切無限の道を含む

一、異端には傳統即ち神意に合する天地の公道としての原理と眞の慈悲至誠、神意一致の原理と無し。故に其異端によりて苦勞せる努力は神意即ち天地の法則に合せず。されば、苦勞の效力尠し。聖人正統の教は天地の法則、天地の公道、人類進化の法則にして神様の御心に合するが故に、其努力皆有效なり。之を換言すれば、傳統の淵源たる神意と一致する慈悲至誠の心にて努力すれば、必ず成功し無より。

有。を。生。ず。る。に。至。る。

一、即ち予が大正四年以降、財力無く健康無く且つ一人の味方無くして能く今日を致せる眞の原因は實に神意を體得して傳統神様の淵源なりに縋りすが日夕只それに凭たれて眞の慈悲至誠の上に立つ人心の開發救濟に邁進せる結果であるのです。

第七條 昭和十一年五月八日訓示結論

- 一、一乘法に従へば必ず成功する事(全體的、永久的幸福)
- 一、一乘法の外異端に迷はざるゝ事なかれ(異端の方便法はすべて人間の利己的本能に投合するやうに出來て居るから迷はされ易し)
- 一、自我没却の事
- 一、神意に同化せる慈悲至誠の上に立つ人心救済の精神と行爲との必要
- 一、幸福とか地位とかを人間に求めず、神様より求むる心にて努力する事
- 一、傳統に安心を與ふる事
- 一、一切の家や團體内の問題は傳統本位に考へて解決する事。即ち主人の意思に従ふ事。萬一其意思不正なる時若くは之を救済し能はざる時には事情によりては或る程度まで、又事情によらば、全部必ず之に従ふ事
- 一、先輩、同列を愛重する事(アイソウ)
- 一、事業と身體とは無理をせぬ事。自分の力相應の事を爲す事
- 一、成、不成は我にありて他人に存せざる事

一、利己的本能の説明

- (1) 煩惱を斷ぜず、安逸、利慾のまゝに助かる事を欲するのみならず、難行、苦行、冒險の如き偏狹なる行爲皆利己的本能なり
 - (2) 物質にて贖罪せむとするは利己的本能にして、贖罪と積徳とは必ず最高道德の精神を必要とす
 - (3) 自己の信仰擁護に争闘を爲す事
 - (4) 同情、親切、義侠心
 - (5) 嗜好、情慾を恣にする事
 - (6) 智識慾、研究慾
 - (7) 運動慾
 - (8) 勝負慾、競争慾等の如き類
- 右利己的本能にて爲す所の道德は天地の法則に合はざるが故に、たとひ一時成功するも遂に崩壊す。

第八條 昭和十一年四月二十四日塾長御講話

今日は最高道徳に於ける教育の根本原理に就いて御話し致します。從來は教育と云へば一般に狭い意味にしか考へて居ないのであります。即ち今日所謂教育とは下^{シモ}は家庭、幼稚園より上^{カミ}は大學、大学院まで只或る一部分の事を教へる事であると考えへて居るのであります。乍併、教育とは斯くの如く狭い意味に解釋すべきものではないのであります。即ち教育とは人間が世の中に處して眞に安心、平和及び幸福の生活を増進し得る所の全體に互る根本原理と根本方法とを教ふる事を意味するのであります。然るに政治家も學者も教育家も皆斯くの如き教育の眞義を知らないで、教育とは只單に文字とか事物の道理とかの一部分づつを分科的に教ふれば宜しい、又其方法も極めて狭い意味の一つか二つかの方法によるものと爲つて居るのであります。而して高等の教育ほど専門に小刻^{コキキ}みに分けてほんの一小部分の眞理を授くるに止まつて居るのであります。是れが即ち學問の研究の不完全な處から來たので、今日の學問は本を忘れて末に走り全體を逸して一部分的に傾き

了つて居るからであります。勿論深い研究には之を分科的に小刻みにして細密に研究するを要する事なれど、其當に當る學者それ自身に於ては博學であつて其上に立つた深い研究法を必要とするのです。然るに今日にては淺薄な狹隘な學識の持主たる學者が只或る一部分の事を深くやるのですから、其結果が實際の役に立たぬのであります。いろ／＼な研究を一つにして見れば矛盾多くして技術上にも處世上にも役立たぬ事が多いのであります。即ちたとへば之を自然科學の研究に見ても、すべての物質研究には化學的考察と物理學的考察とを融合した結果でなくては役に立たぬのであるのに、さう爲つて居らぬのである。たとへば温泉の分析表を見れば同じ成分の温泉であつて其効力は雲泥の差であるのに、素人の浴客は只其分析表のみを見て其温泉の價値を定めて入浴するのですから、効力が無いのであります。凡そ物質の成分は同じで化學的には同一種の温泉であつても、其成分の組立てが異れば其効力は異なるのである。同じ板を五枚づつ用ひても一方は五枚を重ね、一方は五枚を並べたならば、其力は異なるのである。又温泉は物理學的に見れば温度の關係もあり入浴の時間もあるのです。又地球の心部から來る道筋の

如何と溫度とによつても其效力を異にするのである。是れは只溫泉の一例であるが、萬事皆此通りに研究して化學的と物理學的と、生物ならば之に心理學的、生物學的、遺傳學的考察などを始め、人間ならば更に此上に社會學的、政治學的、法律學的、經濟學的考察なども加へて見ねば分らぬのであるが、今日の自然科學の研究者はこんな事には氣がついて居らぬのである。そこで即ちたとへば醫學に就いて見ても人間の身體は一つであるのに、之を治療する學問は内科、外科、耳鼻咽喉科、眼科等と云ふやうに分けて又其内を小刻みに色々に分けて居つて、それが研究だけでなく實際の臨床上にもさう云ふやうに分れて居るが故に、眞に人間の身體全體を生かす治療即ち生命保全の治療には適せぬ處があるのです。然り而して、精神科學の研究法は之を自然科學に比すれば更にこれより不完全にして第一、其研究法が科學的でなくして各學者の利己的本能に立脚する所の主觀的見解であり、其所謂學說とか學問上の原理とかは天地の法則でなくして學者の獨斷ドグマそのものが主位を占めて居り、第二、右に付其學說が聖人正統の教に反する事夥しく、第三、右の如くにして結局要する處は前記の醫術でも精神方面の教育でも政治でも皆人間の幸福

を目的とするのではなくて、其研究者や其職業當事者の生活の目的の爲に利用されてしまつて居るのであります。

モラロヂーは何故に一切の學問の習得并に其應用、換言すれば人間の精神生活并に物質生活に關する精神的基礎學であるかと云へば、モラロヂーは正に聖人正統の精神科學であつて、神意に一致する純眞至誠の精神から割り出したる天地自然の大法則そのもの、現はれであるからであります。故に一切の精神科學は勿論、自然科學の根本原理も皆此中に含まれて居るのであります。隨つて人間の實生活の法則も人間進化の法則も當然此中に含まれて居るのであります。即ち現代の所謂精神科學、詳に云へば政治學、法律學、社會學、經濟學、財政學、倫理學、哲學等の如き學問の根本原理と其習得と應用とに關する幾多の原理と方法とは勿論、自然科學の根本原理も皆悉く此中に含まれて居るのであります。故にモラロヂーの實質と内容とを形造つて居る所の所謂最高道德は天地自然の大法則の異名であるので、シュール・プリーム・モラリテイ(Supreme Morality)と云ふ語も從來歐米人の考へて居つた意味の道德ではなくして、今回は之を天地自然の大法則の意味に用ひてあるので御座

ります。随つて此天地自然の大法則が人類の安心、平和并に幸福實現の原動力であつて人類進化の法則である事を科學的に證明せし所の新科學モラロヂーは正に天地自然の大法則の全體を研究して創建せる新學問でありますから、從來の精神科學の何れにも其類無きものであります。且つ在來の是等諸科學は皆モラロヂーの内容の一部分づつを成せる所の部分的研究に過ぎないものであるのです。而して是等の諸科學は何れも人間の利己的、本能から割り出した聖人の所謂異端の學であつて、正統の學でないから、其學說が天地の法則に反する所多く、之が爲に人類進化の法則と爲らずに、遂に現代の如き人類退化の現象を産出するに至つたのであります。そこで、どうしても現代并に將來の世界には今日存在する所の精神科學、自然科學の基礎と爲り且つ人事一切の基礎と爲る所の新科學モラロヂーの存在を必要とするのであります。

さて、繰りかへして云ふ事はくだいやうではあれど、從來此基礎學の無かつた時代の一切の學問が不完全であつた爲に、たとへば前に述べたる醫學が人間の生命保存、生命保存が人間の幸福の本であるから、役_ニに立たず、を忘れて醫術そのもの、爲に局部の治療

にのみ腐心する事に爲り、局部の治療は人間幸福の政治學や法律學や教育學や經濟學などが科學の本質を有せず、偏狹にして妄りに或る一部分の階級を庇護し根本原理を失うて傳統の存在を忘れ、徒らに一般民衆の徳と力とに應ぜざる制度_をへて人間の私慾を奨励し、義務先行者を抑へ義務を行はぬものを囂々する如き誤りを敢てして、之を天地の法則若くは人類進化の法則の如くに考ふるに至つたのであります。萬一今日速かに此誤りを正して人間の思想と信仰とを聖人正統の御教の通りに導かずば、人類は遂にノアの時代の如くに退化、没落の悲運に陥るに至らむ。されば聖人正統の御教たるモラロヂーの研究と最高道德の實行との必要とは實に焦眉の急務でありましやう。

そこで、聖人正統の御教による所の教育の本義に就いて説明致しますれば、眞の教育と申すは人間の本質を明かにした上で施さねば其肯綮を得るものでないのであるのですが、現代異端の學問は各學者の利己的、本能より成る學說でありますから、異論紛々として眞に人間の本質が明かに爲つて居りませぬ。而して其中には往々正しい學說も現はれて居れど、之を融和統一して教育上に確乎たる標準を立つ

る學問が無いので、學問上にも處世上にも一の確乎たる標準が無いのであります。此點に就きモラロヂーは學問的にも人間の實生活上にも確乎たる標準が存在して居るのです。而してそれは全く聖人の御教の上に立つて居るから、さやうであるので御座ります。仍つて今左に人間の本質并に之に對する眞の教育法に關する聖人正統の教説中重要なもの二、三を左に例示致しませう。

第一『論語陽貨第十七』に『子曰、性相近也、習相遠也。子曰、唯上智與下愚不移』とある。性相近しと申すは人間の天性は各人皆道德的本能(moral instinct)と自己保存の本能(instinct of self-preservation) 是れが進んで今日にては皆利己的本能(selfish instinct or instinct of self-interest)と爲つて居るのであるとの二つを併せ有して居るのであつて、人間の天性は白紙であると申して居るのではないのです。而して上智と下愚と云ふやうに各人皆天然の階級を有して居ると申すのである。そこで教育は之に應じて其方法を撰びて施さねばならぬ必要があると申すのであります。

第二『法華經方便品』に『未來世諸佛雖說百千億無數諸法門、其實爲一乘、諸佛兩足尊、知法常無性、佛種從緣起、是故說一乘』とあります。即ち右は過去の諸佛は勿論、今後現は

る所の諸佛が雖ひ如何なる數々の法を説くと申しても、結局それは一乘に歸著するものである。そこで諸佛并に兩足尊即ち釋迦如來 兩足尊の解、諸說多けれど結局兩足尊は天地に跨る尊者の意を指すは法即ち天地の法則は常に實性、本體なく、隨つて好もなく、惡もなきものにて、善を爲し惡を爲す人の行爲に應じて之を賞罰するものであると云ふ事を知つて居つて、さうして人間は何れも自己保存の外に佛種即ち道德的本能を有して居るが故に、其道德的本能は其人々各自の道德行爲の程度分量に従つて其人々の品性を形造るものであると云ふ事をも知つて居つたのである。是を以て釋迦如來は人間究極の道德即ち一乗の法を説いたのである。故に人間としては種々なる幼稚的、曖昧的、變則的な方便の教に迷はずに專心釋迦の目的として居る所の一乗の法に信頼せよと云ふ事でありませう。是れ亦前の『論語』と同一義にして人間の天性は善惡を併せ含む事と人間には人毎に固有の階級を有して居る事とを説き、進んでかるが故に釋迦如來は結局一乗の法即ち人間實生活の最高標準即ち人間究極の道德たる純最高道德を説いたのであると申す事でありませう。而して茲に所謂純最高道德は即ちモラロヂーに所謂最高道德に當るのであります。

そこで右の二聖人の御教説をつゞめて申せば

(一) 人間の天性は善のみにあらず悪のみにあらず、善惡共に之を含む事。

(二) 右に付其善即ち道德的本能を發達せしめ、惡即ち利己的本能を抑ふるを教育の本旨とする事である。然るに現代の教育は此根本原理に反して、智育とスポーツ教育である。

(三) 而して人間の天性は教育によりて之を屈曲さする事は出来れど、全然變更さする事は出来ぬ事恰かも松の枝ぶりをば人爲的に直し得れど、松を杉にする事は出来ぬと云ふ事である。

(四) 右に付人間には自ら天然の階級ありて上智、下愚の別は勿論、各人千差萬別である。教育は斯かる眞理即ち事實を知つて後に行はねば無効であると云ふ事を示されてあるのです。

右の如くに聖人の教説に於ては人間の本质が明確に定まつたので、しかも此教説は現代進歩せる所の心理學、生物學、遺傳學、人類學などの結論と一致して居るのであります。是に於て人間教育の眞の方針と方法とが確定されたのであります。そこ

で聖人正統の教育には方便と云ふ事はないのであります。必ずモラロジーに所謂最高道德の實行を爲す事によりてのみ其神意に一致する智徳一體情理圓滿の品性を形造り得て遂に最高の人格パーソナリティ及び社會の地位をも含む財産を完成し得るに至るものと爲つて居るのであります。方便品の偈に

妙法蓮華經卷第一の方便品

十方佛土中、唯一乘法、
無二亦無三、除佛方便說、
但以假名字、引導於衆生、
說佛智慧故、諸佛出於世、
唯此一事實、餘二則非眞、
終不以小乘、濟度於衆生、

佛、自、住、大、乘、如、其、所、得、法、
 定、慧、力、莊、嚴、以、此、度、衆、生、
 自、證、無、上、道、大、乘、平、等、法、

とあるもの之に當るのであります。

右は天地の間には只一乗の法あるのみ、二乗、三乗の法無し。只人間としての精力弱きもの、愚昧のもの、貧困にして研究に暇なきもの等に向つて之を助けむが爲に、假りの方法を以て方便説を作つて是等の民衆を導く。それはたとひ右の民衆は分らざるにせよ、佛の智慧即ち天地究極の眞理、換言すれば深遠偉大なる智徳一體の最高道德の存在を説かむが爲なり。諸佛の此世界に現はれしは之が爲にして諸佛出現の目的物たる一乗の法即ちモラロヂーに所謂最高道德のみは實法にして之を行ふものは必ず安心平和并に幸福を得べし。而して此一乗の外の法は皆權りの間に合せの法にして宇宙の眞理にあらず。故に佛は終に小乗を以て人心の開發救済を爲せし事なし。其故は小乗も亦一の方便説たればなり。而して佛は大乗に住し給

へり。斯くて佛は其大乗にて得たる所の法、即ち一乗の法を實現し給ひしが、其定慧の力は實に最上最大なる智徳一體の莊に嚴にして、威嚴と實力とを有するものであり、而して之を以て躬親ら模範を示されて人心を救済したのである。斯くて此一乗の法は天地の間に於ける無上法にして且つ人間が佛と等しき人格を造り得る平等法たる事を證明したりとの事であります。

元來、大乘法の中にも方便説は存在するのみならず、後世に於ては全く異端の教説を立て、之を大乗中の大乗であるなど唱へて世人を欺く宗教家もあつたのでありますから、大乘法と稱しても當てには爲らぬのであるが、茲に所謂佛の住せし大乘は佛教究極の眞理たる一乗の法であるのであります。

先人の説によるに『法華經』は釋迦五十年の説法中最後の十年間に於ける説法の書取りなれば、釋迦の教説の究竟の定論であると申す事であります。此『法華經』に右の如く佛の究竟の目的は大乗の最上眞理たる一乗の法に在つたと申すのであります。而して此一乗は天地間の無上法にして之を行ふものは其固有の階級を超えて佛と平等に爲るべしと申すのであります。是れ正しくモラロヂーに所謂

聖人正統の教説であつて宇宙自然の法則、天地の公道、人類進化の法則であるので、而してモラロヂーの最高道徳は正に之に當るのであります。然り而して更に繰りかへして茲に注意すべき事があります。それは右の大乗平等法の事であり、此教説は元來人間は各自其祖先以來の精神作用并に行爲の結果、天然固有の運命を有し、其運命は天然固有の階級を含んで居つて、たとひ如何なる教育、如何なる修養を以てするも全然松を杉に更生さずする事は出来ぬものであると爲つて居る所の定説に向つて、若し釋迦如來の大乗究極の教説に本づきて修行を行はば、遂に更生の出来ぬ事はないと云ふ事を開示されてあるものであります。是れ實に吾人類が動物の域を脱して神に近づく事の出来ると云ふ一大福音であるので、現代の科學も是認する所であるのです。モラロヂーの原典たる『道徳科學の論文』を通覽すれば明かに此事を知るを得べし。

而して斯くの如き教説は孔子の『論語』泰伯第八にも見えて居ります。即ち『子曰、民可使由之、不可使知之』とある句であります。抑、支那聖人の教にては、聖人の教に通ずるもの即ち最高道徳を實行するものを士以上と爲し、然らずして單に生業に醒寤す

るものを民と申して、士は民の中にて聖人正統の教育を受けたるものを稱する事に爲つて居るのであります。そこで人間に天然固有の階級はあれど聖人正統の御教に依るものは次第に其階級を上り、民より士を出し、士より士以上の階級を出す、と爲つて居るので、而して士とは刀カタナを指す階級と云ふやうな事ではないのです。英語のヂェントルマン(Gentleman)も其實は民の中の士に當るので、今日ではすべて典故も事實も混乱して分らぬやうに爲つて居るのであります。古代聖人の御教は東西皆同一であつたのです。そこで孔子は國家統治の如き大事をば道徳の明かなる士以上に知らせ、民には只其國法に依據して各自の生産をいそしましむべし、さうするのが民衆の幸福であるとの事であるのです。由來東西共に學者、識者と稱せらるゝ人々が支那聖人の御教の本質も其歴史をも知らず、本文の民は由らしむべしの如き文をも誤解して孔子の思想が今日の立憲政體に反し、民衆を輕蔑せる如くに云ひ倣せるものもあつたやうですが、さう云ふ事でなくして此『論語』の本文は一は人間教育の必要を説き、一はすべての民衆の眞の安心、平和、幸福の實現を圖りし一大慈悲心の發現であつたのであります。

さて以上述ぶるが如く人間に對して聖人正統の教育を施して人間の精神を更生せしむる場合には人間の階級の如きも漸次に變化向上するものである事が明確に爲つたのであります。然るに古來宗教の祖師并に教育家なるものは聖人正統の教説を等閑に附して、或は其一部を採りて教理と爲し、或は其所説を折衷して自己の意見に織り込み、聖人の所謂方便説を立て、以て或は宗教的に人心の救済を爲し、或は教育的に人心の開發を行ひ來たつて居るのであります。是れが即ち聖人の所謂異端の學説とか教説とか宗教とか教育とか云ふものであるのです。私の如きも若年以來常に此正統と異端との眞の區別に就きて惑ふ所があつたのです。然るに年三十餘の時、近世無比の高僧と稱せられし所の東京目白の雲照律師の門を叩きて教を乞ふ事數回に及びしに、律師は殊に私の志を篤しとして深く佛敎の蘊奥に關して説教を垂れられたのであります。茲に掲げてある律師の御直筆たる『佛種從緣起是故說一乘』は結局大乘の究竟目的に關する釋迦如來の御敎の眞髓であるのです。而して私は之によりて釋迦の眞意と佛敎究極の眞理とに悟入する事が出來たのであります。斯くて世界諸聖人の正統の教説と異端の教説とに就きて劃然

たる區別を明かにする事を得、遂に自己の安心立命を得、更に眞理研究の方針并に人心開發若くは救済の方法を確定する事を得たのであります。即ち莊嚴なる定慧智徳一體情理圓滿の人格の實行力は聖人究極の教たる人心の開發若くは救済の基礎であつて、辯論の稽古などは全く末節である事が分つたのである。而して人心の開發救済は一乗の法即ちモラロデーに所謂最高道徳にあらざれば出來ぬ事をも會得したのであります。斯くて結局眞の教育は聖人正統の一乘法に依らねばならぬ事が明かに爲つたのであります。

そこで更に一言すれば聖人の所謂方便説即ち異端幼稚の教に於ては、皆人間の利己的本能に投ずるやうな學理若くは教理を説いて人心に迎合する弊害があるのです。故に、社會の木鐸ウチガタと爲りて人心を改善する實力が無いのです。而して却つて人心の弱點と社會の弊害とを助長して人間の眞の安心、平和及び幸福を阻止するもののみであるのです。即ちたとへば智識の要求と運動とは尤も若き人々の利己的本能に投合するものであつて、人間の改善法としては末節であるのに拘はらず、現代の教育は此人間の利己的本能を利用して教育に智育とスポーツとを獎勵する

のであります。而して試験と宿題とを以て生徒の名譽心に訴へて生徒に無理を爲さしめ、將來に於ける人間の健康に就きて之を顧みぬのであります。故に生徒の精力は智識の習得とスポーツとに費され若き人々は擧つて道徳心に乏しく之が爲に一方には箇人の安心、平和、幸福がだん／＼に薄くなり、一方には國家、社會、家庭、會社、學校、工場、商店等の統制がだん／＼に難く爲つて來て居るのであります。又金と健康とは何人も欲する所であるが故に、宗教は此弱點を利用して神佛に金を上げ而して専心信仰を篤くすれば其目的を達すべしと説くのである。又自分の信仰、思想を本位として之に反するものとは争闘しても宜しく之を迫害しても宜しいと云ふやうに説き、甚しきは君主又は國家に對しても敵對せよと説く宗教もありて、古來東西共に大なる不幸を人類に與へたのであります。而して是れ何れも聖人正統の教、天地自然の法則、人類進化の法則并にモラロヂーの最高道徳に反する所の不合理、不合法なる不良の教であるので、學問上、實際上信すべからざる空論であるのです。乍併、是れは素より昔の大教育家若くは各宗教の祖師などの徒らに人間を苦しむる爲に作つた教ではなく、其人々の精神の中には深き慈悲心ありて多數の民

衆を助くる方便として斯かる事を教へたものであるのです。故に其教は簡單平易にして單に信すれば宜し、拜めば宜し、繼れば宜し、金を上げて過去の罪を拂へば宜し、而して此教に反するものは君主、法律、父母、先輩を論ぜず之と闘争しても可なりと云ふやうに教へたのであります。乍併斯かる教は何れも只下根下劣の人や無智蒙昧の人や若くは貧困窮乏にして眞の教を聽く暇なき人々を助くる爲の方便にして、眞に神佛の意に合し、天地の法則に合し、若くは人類進化の法則に合するものではないのであります。而してたとひ是等の異端、幼稚、變則の方便説によりて或は病を直し得、或は富籤に當選し得たとしても、其效驗は一部分的且つ一時的效力に過ぎないのであります。凡そ斯かる方便姑息の道徳に依りて如何にか人間の全體的且つ永久的なる安心、平和及び幸福の實現を見るを得むや。

私は中等教育終了後、麗澤館在學時代より聖人の御教に親み更に進んで現代的學問の研究に入り、其現代に於ける精神科學の不完全と宗教の缺陷とに鑑み、十九世紀の後半に於ては既に學問と教育との改善を思ひ立ち、今日のモラロヂーの腹案を定めて、徐々に其實行を進めて居つたのであります。然るに大正元年の大患は一

時に私の歩行に一大變化を來たさしめ、之が爲に從來の職業を抛ちて専心モラロヂーの研究と實行とに移ることに爲つたのであります。當時私は病後の身體甚だ弱く年來蓄積の藏書は之を某處に無條件にて寄附して書庫は空虛と爲り、財力亦十分には無かりしも一意専心神様に凭れて天地自然の無上法たる最高道德の眞理をたよりととして之を發揮し以て世界人心の開發救済を爲さむとして萬難を冒し荆棘の中に立つて泰然自若、聖人正統の一乘法を固執せし爲め遂に今日昭和十一年五月の成功を致すに及んだのであります。

今モラロヂーの會員諸君は無智蒙昧でもなく、貧困窮乏にして研究の餘暇なき下級民でもなき御方のみなれば、他の簡單平易なる方便姑息の教によらず、深く深遠偉大なる天地間の無上道としてのモラロヂーの最高道德を研究せられ且つ其實行を爲されたし。さすれば諸君并に御一族の健康、長命、開運并に家運萬世不朽の大運命を開くを得るに至る事疑ひなき事であります。

大正十三年夏の頃には私に對してさへも私の最も昵近者たりし人々皆私の健康と事業の遠大困難とを比較して私の前途を疑つて居つたのであります。況や其他

をや、然るに私は聖人正統の御教を確信して其研究と實行との困難なる無上法を撰びて専心之によりし故に遂に今日を致したのであります。萬一私にして其研究と實行との困難を恐れ中途疑惑躊躇して他の哲學、道德若くは宗教に入つたならば決して今日の安心、平和及び幸福はありませぬ。願はくば諸君も疑ふ處なく此無上道たるモラロヂーに依られたし。其成功千萬疑ひなし。若し諸君にして眞に諸君の生業を繁榮せしめむと欲せば、天地の法則、人類進化の原理に従ひ正に神意に同化して利己的本能を去り先づ社會全般の利福を目的として事業を開始せられたし。自己の利益は自ら其中に存在するのです。そこで諸君は正に良品を造りて之に相當の價を附し而して篤く説明を加へ漸進的に進出せられたし。決して無理をして資本以上の事業を始め且つ妄りに之を擴張すべからず。又手形にて賣るとか、延べ拂ひにて賣るとか、借財をするとか、大廣告をするとか、景品其他の政策的賣出しをするとか、投機に手を出すとかすべからず。著實に徐々に内には品質の向上を圖り、外に向つては主人自ら其説明の任に當るべし。斯くの如くにして進まば遂に相當の富を造り社會の地位を上る事を得るに至るは必然であります。今日は實に實

力の世の中でありませぬ。肩書など何とせんや。況やありふれたる何々長、何々委員など云ふ如き小地位をや。

諸君、最高道德の實行は其結果を人間に求めずとも、健康、長命、開運、并に家運萬世不朽、此四つの幸福は天地の法則として最高道德實行者の必ず神様より授與せらるるものであるのです。今日、日本だけにても無意識に最高道德を行つた子孫が數百軒は萬世一系で存在して居るのです。若し諸君にして自覺的に之を實行せば更に之より大なる効果がありませぬやう。而して改めて諸君の實生活上の方針を申しませぬが、諸君は必ず一方には最高道德にて御徳を積まれ、而して一方には諸君の生業を最高道德的に最良最善のものと爲して進まれよ。而してくだいやうであれど重ねて申すが第一に注意すべき事は自分の力以上の事をして無理せぬやうにすべし。すべての無理は己を害し人を傷くるに終るものにて皆無慈悲、無誠實なる不道德漢の行爲に當るのであります。すべて正に持久的に進む方針を執るべし。斯くて事業上如何なる良品でも之を説明せねば賣れませぬから、主人自ら出馬するか又は最高道德を體得せる店員を出張させて詳かに事業の方針、方法と其品物の品質

代價等を説明すべし。第二には貸賣りをせず、現金取引を爲し、預金は確實なる大銀行に爲し、相成るべく確實なる會社の株券の外普通の株券をば持たぬ方安全であります。斯くて第一に世間の名譽職など肩書を持つ事を止めて専ら實力を養ふべし。實力とは自己の最高品性、最高智識モラロヂーの學問と智識とを得べし。自分の事業の繁榮、財力の充實借財などの等を云ふのです。是れさへあれば世間の肩書の如きは自然に得らるべし。今日の人は此實力を造る事を忘れて空虛なる肩書を得むとして苦しむので愚かな事であります。私はもとは普通の學者にて知人、友人皆大臣や次官や議員や大學の教授であるが、私は神様の御蔭によりて實力を造る事のみを心がけたので御覽の通り斯くの如くすべての人々の親に爲つたのであります。諸君返すく、此天地の無上法たるモラロヂーに信賴して神意に一致する慈悲、至誠の精神により人心救済に従ひ以て之を御實行ありたし。此無上法は他の教と異り實行さへ致さば必ず其結果は好良であるのです。宛も御飯をたべて腹を造ると同じく全く科學的でありますから安心、幸福の享受は實に確實であるのです。

第九條 道德科學研究所と道德科學教育(The Institute of Morality and the Education of Moralogy)

昭和九年 八月二十日 道德科學研究所編纂

(一) 當道德科學研究所は之を研究部、開發部の二部に分ち、研究部に於ては夙に研究生として助手を養成し、開發部に於ては講演會、講習會を開きて所謂社會教育を行ひ來たりしが、今回右の社會教育の外、學校教育として道德科學專攻塾を開設する事に致しました。

(1) さて中等教育卒業者にして實社會に出づるには年も若く學問も手薄く經驗も乏しく今少し勉學をしたいが、さりとて競争試験を受けて正式に専門學校や大學に進むほどの時間をも有せずと云ふやうな諸君に對し、當專攻塾は之を迎へて極めて適切なる實際教育を施さむとするものである。故に當專攻塾は專攻部の一箇年修了に止まるか若くは二箇年修了だけに止まる青年諸氏に對しては實に滿腔の誠意を以て其人々が品性、學識の發達を遂げて有用な

る實際的人物と爲るやう希うて已まざる次第であります。随つて其教養には全力を盡す筈であります。

(2) 内外官公私立の専門學校卒業者若くは内外官公私立の大學卒業者にしてモラロデー教育を受けむとするものは之を別科に入塾せしむと雖も其希望によりては本科に入塾せしむ。而して此人にして萬一最高道德の實行者と爲らば、數箇月若くは一箇年のモラロデー修業は實に其人の學問に新生命を生じ其人をして偉大なる幸福に浴せしむるを得べし。

(二) 當研究所并に專攻塾は道德科學并に其内容と實質とを形造る所の最高道德(the Supreme Morality)の原理并に實行の方法を具體的に教授し、智德一體の聖人正統の教育(the Orthodox Education)を施し以て學生の最高品性(Highest Character)を陶冶養成し而して其最高人格(Highest Personality)の獲得に資せむとするものである。從來品性(Character)とは道德上の語であれどモラロデーには正統の學問と正統の智德一體を含む。而して凡そ法律上に於て所謂人格(Personality)はすべて智德の外、其人の權力及び社會の地位等を含むが故に品性と人格とは嚴格に云へば同一物ではないのです。仍つて念の爲め誤解なきやう一言を添ふ。

一教育を受けたる人はたとひ二三箇年間に後れて事業を始むるも若くは人に後れて官吏、教員と爲るも又會社、工場、商店等の従業員と爲るも普通規定の教育のみを修めたる人達に比すれば漸次に厚き信用を得、非常の功績を社會、國家に樹立する事を得べし。

(五) 現代に於ける世界各國の教育は主として人間の利己的本能の上に立ちたる智識 (Intelligence) (註一) と因襲的道德 (the traditional, or conventional morality) とによるものなれば聖賢の所謂異端 (Heresy) 若くは外道 (Heresy) の教説を含む事が多いのである。故に全世界何れの國の教育も古より完璧のものなく弊害甚だ多くして古今東西に於ける政治上、宗教上、産業上、經濟上、并に人生衣食住の上に行はるゝ所の最も人類の實生活を害する彼の眩惑主義 (Spectacularism) やカムフラージュ (Camouflage, ゴマカシ) の如き事皆其端を此異端の教育から發するものとして古來聖賢の夙に憂慮措かざりし所のものであつたのです。

而して眞の教育は正に人類進化の法則たる天地の公道に合する所の神の智識 (Wisdom) (註二) と神の道德即ち最高道德 (the Supreme Morality) とに立脚せねばなら

ぬのであります。此神の智識には最高道德を含み最高道德には神の智識を含むが故に、モラロヂーの教育を智德一體の教育と申すのであります。人間の利己的本能から出た智識と因襲的道德とは其發作時に於ける場合、自己の利益を目的として表現する所の智識若くは道德なれば二者一致せず、之が爲に從來の教育にては智若くは情に偏する人間を造り出して完全なる情理圓滿の人格を持つ人間を造り出し得なかつたのであります。

(註一) Intelligence は人間の理解力 (power of understanding) の意味に當るものにて人間の利己的本能に本づくものである。故に日本語にては正に『人智』と譯すべきものにて、これより派生せるものが異端の智識 (heterodoxical knowledge) であり、此處の智識はインテリヂェンスに當るものとすべきであります。

(註二) Wisdom は正當なる判断 (sound judgement) の意味にて神及び聖人の教説に本づく智識であります。正に『神智』と譯すべきものにてこれより派生せるものが正統の智識 (orthodox knowledge) であります。此處の智識はウイズダムとすべきであります。以上の説明は主としてオックスフォールド大學英語英文學教授ワイルド氏 (Henry Cecil Wild) の『ユニヴァーサル英語辭典 (The Universal Dictionary of the English Language, 1932)』による。

(六) 眞の大學教育は勿論、此外すべて人間一切の教育に關する原理及び方法は孔夫

子、釋迦、キリスト、ソクラテス及び世界諸聖人の實現して以て其範を開示せられたるものにして、其詳細は『禮記』の大學篇、學記篇等を始め諸聖人の經典に見ゆる所である。而して今當專攻塾は其形式未だ甚だ具備せざれど其精神に至つては之を聖人正統の大學の精神に則り、傍ら英國に於て歴史的に由緒ある所のケンブリッジ (Cambridge)、オックスフォード (Oxford) の兩ユニヴァーシティ、并にイートン (Eton)、ウインチェスター (Winchester)、ラグビー (Rugby)、ハロー (Harrow)、ウェリントン (Wellington) 等のパブリックスクール (Public School) の長所を採擇し、以て現下のモラロデー專攻塾并に將來のモラロデー大學の基礎を形造りたるものである。されば、當專攻塾は今日に於ては表面上單なる一私塾に過ぎずして其形式未だ不備を免れざれども、凡そ聖人正統の智徳一體の人格教育の道場としては敢て窃に世界に誇るべき實質を有して居る事を斷言して憚らざる次第であります。されば、内外の識者は奮つて其子弟親族及び其知人の子弟を當塾に入塾せしめられ

たし。

英國に於けるオックスフォード出身者をオクソニアン (Oxonian) と呼び、ケンブリッジ出身者をキャンタブ (Cantab) と呼び、同國に於て共に高き信用を有す。而して今當專攻塾の幹部職員に於ては當塾の出身者たるモラローグ若くはモラロヂアン (Moralogue or Moralogian) も亦將來内外各國に於て最高の名譽と信用とを享受するに至るやう努力する筈であります。

(七) 近時世界の識者は今日全世界に於ける人心の頽敗と不安とに鑑みられて現代教育の大改革を思ひ立つもの多し。英國若くは米國などにて盛に唱へられて居る倫理協會 (Ethical Society) のことなどは『道德科學の論文』にも述べて置いたが上掲書第二版追加文第六十四條目下一兩年以來特に旺盛を來せるオックスフォードグループ運動 (Oxford Group Movement) の如きキリスト教復興の新たなる大運動も起つて居るのである。元來此運動の起原は既に久しいやうである。一般に人目を惹くやうに爲つたのは一兩年以來である。既に今一九三四年の當該グループの世界大會は去る六月三十日から七月十七日まで開會され、其出席者は五大洲全部四十國に亙り五千餘人に及び非常の發展を爲すに至つたのです。サミュエル・シューメイカ (The Conversion of the Church)、『シャーウッド・サンダーランド・デイ氏 (Sherwood Sunderland Day) の『オックスフォードグループの原理 (The Principles of the Oxford Group)』其他多くの參

あり支那の如きも中華民國創立以來久しく三民主義民族、民生など誤れる近世思想に陥つて居つたが、今年昭和九年即ち一九三四年に至つて支那國民教育の基礎を聖人の教に復する事に決し、八月二十七日孔夫子の生誕日を以て支那の國祭日に定められ而して今年の當日は既に支那政府に於ては官衙、學校、工場等の休業を行はしめ、特使を夫子の大廟に派遣奉幣されたとの事であります。乍併、以上其復興の原理并に其具體的方法共に何れも未だ其目的を達成するには完璧と稱し得ざるものであれど、斯かる新機運が世界識者の間に起りて近世の誤れる學問、思想主義、信仰が人類の安心、幸福の實現に對して害ある事が多少にても一部の人々に認められて、たとひ其主張だけでも、聖人の教に依らねばならぬ事が唱道さるに至つたのは人類の爲に誠に賀すべき事であり、而して是より前デンマーク國はナポレオン一世の脅迫によりて之に加擔せし結果ナポレオンの没落と共に多大の困難に陥つたのである。(二八一五年ウーイン條約)次いで一八六四年獨逸より突然の攻撃を受け敗戦の後遂にシュレスウィヒ(Schleswig)ホルスタイン(Holstein)の二公國を獨逸に讓與する事と爲れり。此結果デンマーク國民は更に

悲境に陥るに至つたのである。然るに是より前デンマークの國難を救ふべく第一に奮起せしは同國の學者、詩人兼牧師たる僧正ニコライ・グルントウ、と(Bishop Nicolaj Frederik Severin Grundtvig)として一八四四年始めて國民高等學校(The Folk High-School)を設立し以て國民中の青年階級に向つて生氣ある新教育を施さむ事を計畫したのである。然るに一八五一年には第二の國民高等學校がクリステン・ホル氏(Christen Kold)によりて設立されたのである。而してデンマークは遂に此國民高等學校の精神と此精神を敷衍したる國民的教訓の標榜語スローガンとによりて復興を爲し、二十世紀に入りて眞に其箇人の安心、平和、幸福と國家の繁榮とを實現するに至つたのであります。此事は目下我が日本を始め世界文明諸國の人心の改造并に國民産業經濟の進展上極めて必要なる事であり、左にデンマークの所謂國民高等學校の概況、其効果并に同國復興の所謂標榜語に關する文獻を引用すべし。

第一、ベグトラップ外二名共著、デンマークの國民高等學校と農民團體の發達自一三六頁至一三九頁(Holger Begtrup and two others, The Folk High-Schools of Denmark and the Development of a Farming Community,

- デンマークの國民高等學校要則二十箇條 (Twenty Short Items about the Danish Folk High-Schools.)
- (一) 國民高等學校はグルントウイビ (Grundtvig) の心に映じたる所のデンマーク人の精神から生ずる純粹の果實である。(中略)
 - (二) 最初の國民高等學校グルントウイビの設立は一八四四年北シュレスウイヒのロディング(Rødding)にドイツ人に對する精神的堡壘(a spiritual fortification)として建設された。(中略)
 - (四) 庶民の國民的精神を覺醒せしめたる所の一八四八一八五〇年の戦役後、クリステン・コル(Christen Kold)はフーエン島(Funen)のリヌスリンゲに其高等學校を建設した。(中略)
 - (六) コルはグルントウイビの思想に本づく高等學校に對して内面的、精神的特徴と容易且つ簡單なる外形とを附與した。
 - (七) コルの主要なる目的は其生徒の内面的生活を覺醒せしめ、又生徒に對して互に精神的同朋たるの感(a sense of spiritual fellowship)を與ふる事であつた。(中略)
 - (八) コルは人民の人格を發展する事(the development of personality in people)があらゆる點に於て人間生活を促進せしむべき最も直接且つ確實なる方法である事を認めた。(中略)
 - (三) デンマークには現在(一九二六年)約六十の高等學校が存在して居る。
 - (三) 高等學校の毎年の就學者は十七歳乃至三十歳の男女約九千人である。
 - (四) 高等學校は私立機關(private institutions)であつて生徒は自ら進んで入學したものである。
 - (五) 生徒と職員とは校舎内に起居を共にする。斯くの如くに一箇の大家族として起居を共にす

る事(living together)こそは同朋感を促進せしむるに與つて力があるのである。

- (六) 國家は高等學校を支持(support)するが併し其内事には干渉(meddle)しない。
- (七) デンマークの國中到る所に集會所(meeting-houses)があり、其處で高等學校所屬の人々が講演を爲すのであるが、かやうにして高等學校所屬の人々は地方に於ける極めて敏活なる人々と常に接觸を保つて居る。
- (八) 一般に高等學校の生徒は其卒業後地方の政治、産業組合其他に於て指導的地位(the leading position)を占むるやうに爲つた。(下略)

第二「ハーヴァード教育報告書」(カボット氏による)第五頁至九二頁 (Harvard Bulletins in Education, Number 15, by Stephen P. Cabot, pp. 85-92.)

第四部 デンマークの國民高等學校

第十五章 國民高等學校の建設者

一、デンマークの繁榮

私(カボット氏)が昨年(一九二九年)の夏デンマークを自動車で同遊した時、驚かされた事は良く耕作された農場の廣大なる事であつた。而して其範圍はユーラン半島(the peninsula of Jutland)「フーエン」(Fyen)「シーラン」(Seeland)兩島の大部分に及んで居た。(中略)到る處整頓して居り、到る處に繁榮が現出して居た。(中略)

二、農民の覺醒

約百年以前に於てはデンマークは今日の如くに繁榮ではなかつた。(中略)



不景氣 (Depression) と絶望 (Despair) との國を希望 (Hope) と信頼 (Confidence) との國たらしめた此顯著なる變化の直接原因はデンマーク人が一八六四年プロシア人の爲に敗北した事であつて、此年デンマークは其敗戦の結果、勝者たるプロシアにシュレスウイヒ・ホルスタイン (Schleswig-Holstein) の大部分を譲渡せねばならなかつた。而して國民高等學校が數多く建設されたのは實に此頃であつた。(中略) 農民階級内に於ける再度の覺醒が出来たのは殆んど其全部を一箇の人間——即ち國民高等學校創立の父たるニコライ・グルントウィヒ——の靈感による教 (the inspired teachings) に負ふものである。グルントウィヒは一七八三年シーラン (Seeland) に生れた純粹の古デンマーク人の子息であつた。(中略) グルントウィヒは國人をして其祖先の簡易なる信仰と強さとに還元せしむる指導者たらむと決心した。デンマーク人こそは ^{チョイス・ニャブス} 撰民 (a chosen people) たるの運命を擔ふものであつた。モラロチー記者曰く嚴密に批評すれば今此處に撰民と云ふ字道徳を實行せるグルントウィヒは其國人に對して——箇人的にも集團的にも——深い信頼を懷いて居た。(中略) グルントウィヒの教授法はすべて口頭であつた。彼は其聽者の精神力、其想像力を自由に活動せしめ且つデンマークを道徳的頹廢 (moral ruin) より救濟せむが爲に國家に對し熱烈なる奉仕を爲すようにと人々を鼓舞した。(中略)

四、グルントウィヒの目的

革命時代に於けるグルントウィヒの計畫の持つ最も獨創的特徴の一つは學生の年齢を十八歳より二十五歳に限定する事であつた。十九世紀の初頭以來デンマークには小學校があつたが、

グルントウィヒの考へでは人は小學校期間と著ききの無い青年時代とを經過し又人生問題 (the life questions) を尋ね且つ若き人々は仕事によつて人生の實際と困難とを幾分か經驗した後でなければ、グルントウィヒ自らが立てた全計畫の基礎を爲す高尚な理想 (higher ideals) を受け納れないであらうとの事であつた。(中略) グルントウィヒは若し其國人が政治を爲すとする場合、睿智的に政治を行はむが爲には先づ第一に國人自らが開發さるべき事の必要を認め、斯くて彼はソロ (Soro) に全國民の爲めの國立高等學校の建設を提議した。(中略) 乍併、グルントウィヒの國民高等學校は決して實現しなかつた。(中略)

五、クリステン・コル (Christen Kold, 1816-1870.)

以上述べた高等學校に就きもつと詳かに記述するに先き立つて、私は今一人別の開拓者 (Pioneer) を挙げなければならぬ。而して此人こそは高等學校を形成するに當りグルントウィヒの唯一の補助者であつた。それはクリステン・コルであつた。コルは一八一六年貧しい靴屋の子息として生れた。(中略) コルはグルントウィヒの教によつて感化され、斯くて北シュレスウイヒにグルントウィヒが最初の國民高等學校を建設する時コルも之に参加した。(中略) 其後コルは自らリュスリヤンゲ (Ryslinge) に高等學校を建設した。(中略) グルントウィヒと同じやうにコルにとつても其生徒の魂に近づく事は『生ける言葉 (the living word)』を通じてであつた。コルは常に『開發する (Enlighten)』よりも寧ろ『生命を吹き込む事 (Enliven)』に力を盡した。(中略) コルは決して其生徒にノートを取らせなかつた。若しノートを取らせると其言葉の生命ある使命 (the vital message) が失はれないかを恐れたからである。(中略)

六、ルドウィヒ・スクレダー (Ludvig Schröder, 1836-1908.)

デンマークがドイツによつて敗れた年(一八六四年)はデンマーク人の大覺醒した年である。即ちデンマーク人が其スローガン(Slogan, 標榜語)として立てたものは

『我等は外部で失つてしまつたところのものすべてを内部で獲得せねばならない(We must win inwardly what we have lost outwardly.)』

と云ふのであつた。中略、斯くて新しい指導者達が甦起したのであるが、ルドウィヒ・スクレダーは其中の一人であつて、彼は現にデンマークの最高の高等學校である所のアスコウ高等學校(Ascov High-School)の創立者である。中略、スクレダーはホルのやうに天才ではなかつたが、グルントウヒの眞の弟子であつた。スクレダーはグルントウヒとグルントウヒの原理とを文字通りに説き示した。スクレダーの感化は農民達にとつては計るべからざるほどの助力を持つて居た。而して農民達はあらゆる事柄に就いてスクレダーに相談した。中略、又高等學校の理想が家庭生活の中心(a centre of home life)として發達したのはスクレダーと其夫人との賜物である。今日に至るまで高等學校は眞の家族生活を持つ非形式(the informality)と内面的熱情(inner warmth)とを映し出して居る。之をデンマークの詩人が表現した事があるやうに、『學校の目的は家庭が學校であり、學校が家庭である時に達せられたのである。』(The goal has been reached when home is school and school is home.)』(下略)

第三、ヘグトラップ外二名共著、デンマークの國民高等學校と農民團體の發達 九頁 (Holger Bøttger and two others, The Folk High-Schools of Denmark and the Development of a Farming Community, p. 109.)

一八六四年デンマークと獨逸との間に再び戦端が開始された。此戦に於けるプロシアの公然たる目的はビスマルク(Bismarck)の統率の下にホルスタイン(Holstein)、シュレスウィグ(Schleswig)の二公國を掠奪する事であつた。(中略)戦争は勿論デンマークの大敗に終つた。(中略)デンマークはホルスタインとシュレスウィヒとを失つたのみでなく更に又コンゲーン(Kongeaen)にまで達するデンマーク語を話す北シュレスウィヒをも失つた。従つてデンマークの受けた損失は極めて大であつたが爲にデンマーク人は其傷ついた王國が將來獨立國として立つて行く事は出来ないであらうと絶望を懐くやうに爲つた。乍併、此悲惨なる一撃こそはロマンチック(現在世界各國人の考へて居るやうな甘つたるい譯の分らぬ氣分を云ふの夢を追ふデンマーク人を救済したのである。即ち之によつてデンマーク人は其思想傾向が著しく現實的と爲つた。斯くてデンマーク人は心を落ちつけ仕事(Work)に依つて再起を圖らうと決心した。而して其際彼等が標語としたものが所謂『我々は外部で失つてしまつたところのものすべてのものを内部で獲得せねばならぬ(We must win inwardly all that we have lost outwardly.)』と云ふ詞であつた。(下略)

デンマークの復興は右の國民的教訓の意味の如くに其國民の精神の道德的復興によつて出来たものである。

然るに今日世界の文明諸國は其人心の類敗と政治、外交、財政及び經濟の不如意とを復興する對策として單に形式の變化(即ち人物のとりかへと事物の改革)若くは革命(レヴォリューション)とを爲して之を成功せしめようとして居つて、而して之を成功さす

る方法は、只金銭の使用にてのみ出来るものと誤解して居るのでありますが、是れ實に非常なる誤りであります。既に近世日本にても二宮尊徳翁の野州櫻町の産業改善は年月と道德教育とによつて成就したものである事を知らねばならぬのであります。デンマーク復興の國民教育も櫻町復興の二宮教育も共に因襲的道德に立脚する所の教育であつて、之をモラロヂーの原理より見れば未だ甚だ幼稚なものである。されど、其教育の基礎を人間の道德心開發に置いた所に其成功を齎したものである。されば聖人正統の學問と最高道德とに立脚するモラロヂー教育が今後如何に偉大なる効果を日本并に世界の人心に及ぼすかは想像に難からぬ所でありまじやう。全世界の識者は偏見を去り公平なる見地に立ちてデンマークの復興とモラロヂー教育の勃興とを比較して御考へ下さるやうに願ひたいものであります。

抑、デンマークは其國民の純真なる精神力によりて半ば亡國に瀕せる所の頽勢を斯くの如くに普通道德教育を以て回復されたのであるが、今日國力の旺盛を極めたる日本人が若し幸にして前者より優秀なる最高道德的教育によりて

一層國運の發展を爲すの覺悟を有するに至りましたならば、其目的を達し得ざる道理がありませんやうか。日本の識者は深く茲に顧みて種々の形式的計畫を爲すを止めモラロヂー教育に御信頼あらむことを乞ふ。

(八) 當研究所に於けるモラロヂー教育は一に之を『出藍の教育』と申すのである。此事は『荀子』の勸學篇に『君子曰、學不可以已。青取之於藍、而青於藍。冰、水爲之、而寒於水。』とある文に本づくので、是れ聖人正統の眞の大學教育の精神であります。即ち師は全力を擧げて學生を指導し、學生は全力を擧げて自修研學に従ひ歲月を積み以て遂に其師に勝るに至るを謂ふ。斯くて始めて人類の進化を實現するのである。子孫は父母、祖先より賢良と爲り、弟子は師より賢良と爲り、斯くの如くにして簡人も社會も始めて進化するのであります。然るに今日の教育は人間の本能的智識と本能的道德との上より注入的講義と宿題練習と記憶試験とを以て學生を束縛し以て學校の統制を保つを常とす、而して斯くの如き方法にては決して人間をして出藍の利器を成さしむる事を得ず。出藍の利器は必ずや聖人正統の智徳を繼承する學者の指導と自發的なる自修研鑽と自發的なる最高品性

完成の志願を有する學徒の精神と三者相倚り相待つて始めて出来るものでもあります。今當專攻塾は此主旨に本づきて右三つの方法を完全に融和し以て出藍の利器を養成せむとするのであります。而して『出藍』は單に學力才能に止まらず必ずや最高道德の實行上出藍を要するのであります。

最近の自然科学進化論にては人間と動物とは種類カテゴリーの差でなくして程度ディグリーの差であるとして居るのである。乍併、カントの唱道せる規制的原理 (Regulative Principle) は近時生物學的にも是認されて人間の發達性は今日既に他の動物より著しいのですが將來も尙ほ進んで止まぬものと爲つて居るのであつて、人間が動物の上に在る事は證明されたのであります。乍併、其進境を開く方法に至つては今日まで世界の學問上にて全く明かならざりしが、今や聖人正統の新精神科學たるモラロヂーにては明かに其人間が動物の域を脱して神に近づく方法を科學的に確定、開示するに至つたのであります。斯くて神に近づける人間に對して聖人は之を撰民 (chosen people) 『舊約聖書』詩篇第三十三章第十一節 (The Old Testament, New Testament, Psalms, 33-12) 『新約聖書』エペソ書第十五章第十六節 (The New Testament, John, 15-16) と稱してあるのです。而して此事は佛教にては煩惱ボンノウを解脱ゲツトクせる菩薩ボサツ

(Bodhisattva) 若くは羅漢 (Arhat) 以上を意味し、儒教にては聖人の許せる所の大人若くは君子を意味するので、彼此其詞は異れど其實質は同一であるのです。斯くて此撰民は天災地變に罹カらず、健康、長命、開運且つ家運萬世不朽であるのです。是れ内外古今の歴史及び社會學的資料の證明する所であります。當研究所教育の方法及び目的は實に此撰民を養成するに在るのです。而して過去二十餘年間當研究所所長は自ら最高道德を行ひ而して數萬の撰民を日本國中に造り上げて居るのである。即ち當研究所には神壇ありて眞正なる天地の根本神靈此處に鎮座せらる。當專攻塾に於ては學生は勿論、すべての人間をして朝夕此神壇の神靈に親炙シンシヤクし奉りて其神格の感化を受け、眞の神と爲り聖人と爲り君子と爲り撰民と爲つて眞の安心、平和及び幸福の人に爲らしむる事を目的として至誠努力を爲すのである。故にモラロヂー教育をば之を『撰民教育』とも申すのである。而して此撰民教育の普及によりて人類は始めて眞の進化の途に上れるものと謂ふべきである。而して是れ實に出藍教育より更に以上の價值ある教育であるのです。

(九) 更にモラロヂー教育に於て特筆すべき事は『大義名分の教育』が徹底的カクタイテキに出来る

と云ふ事でありませぬ。即ち新科學モラロヂーには『傳統(Ortholion)の原理』と云ふ偉大なる眞理の發見がありまして、此原理により君主、父母、祖先、恩人、長上、若くは職業上の主人側に對して服従すべき事を科學的に教ふるものであります。此傳統奉仕と云ふ事が人間として必ず行はねばならぬ道であるので所謂天地の公道であるのでありますから、此傳統奉仕の道を東洋にては大義名分と申したのであります。大義名分とは即ち人間の行ふべき大道と云ふ事でありませぬ。而して此大道の中にも國民が國家の主權者に奉仕する事ほど重大な道徳はないのであります。其故は人類は今日猶ほ國家對立の時代でありますから、吾人國民の安心及び幸福は國家の保護ありて始めて成立するのであります。さすれば、其主權者奉仕の道ほど重大なものはない筈であります。殊に我が日本は萬世一系の皇室ありて始めて斯くの如くに國家の統一が完全であるのですから、畏れ多けれど皇室を御擁護し奉る事と國民幸福の保障との上から大義名分を明かにするほど大なる事業はありますまい。モラロヂーは傳統の原理によりて明確に大義名分の原理を科學的に確定してあるのでありますから、モラロヂー教育の國家

に對する價値の偉大さは非常な事でありませぬ。然るに今讀つて我が日本の歴史を顧みるに史的研究の結果は武門の崛起、幕府の創業、承久并に建武兩度に於ける皇室の御遭難より其數百年間に亙る皇室の御衰頹は我が日本の國民間に大義名分の教育の湮滅せる結果であるのです。而して明治王政の復古は其大義名分の教育の再生に本づくものである事が明かに爲つたのであります。從來、史實不明の時代に於ては建武中興の失敗の如きは畏れ多くも後醍醐天皇の御失政であるかの如き説もあつたのですが、近時専門家の研究によるに天皇に於かせられては決して俗史の傳ふる如き御不徳なき事を確實なる資料によりて證明する事が出來而して右中興大業の失敗は當時の人民が只利己心のみありて大義名分の觀念無かりしより足利氏の惡宣傳に迷はされて茲に到りしものであるとの事でありませぬ。是れは正に年來モラロヂーに於て唱道せる大義名分の教育の必要を裏書されたものであります。而して此大義名分の教育は單なる國民の感情に訴ふるだけに徹底するものではありませぬ。必ず之を國民の理性に訴へて科學的に其必要を國民に知らせねば無効であります。されば、將來永久に

我が日本の國體を維持して上は畏れ多くも皇室を安んじ奉り、下は一般國民の安心幸福を圖る眞の方法はモラロヂー教育の普及振興の外ありません。されば當專攻塾に於ける傳統の教育は一に之を大義名分の教育と申すべきであります。乍併、又一方當研究所にては科學的に我が國體を明かにすると同時に、他の一方には中正周到圓滿なる最高道德の全原理を以て簡人の人格を陶冶するが故に學生は大義名分を辨ふると同時に至誠慈悲の精神に本づき教育的に溫和手段により之を同胞に傳へ以て其精神を開發するに至るが故に、たとひ如何に大義名分に反する政治團體若くは社會團體の存在する場合にても、君命の外之に對して政治的行動を執る事をば許さぬのであります。されば、モラロヂー教育の效果は一面爲政者、貴族、富豪若くは資本家側に取りては極めて安全なる秩序の維持と統制の實績とを享受する事を得、又他の一面には如何なる場合にも學生に赤化は勿論、國事犯、暗殺犯、酒色其他の過失を生ずる憂が無いのであります。されば、モラロヂー教育は教育として實に古今東西未曾有の萬全無瑕の性質を有する教育であります。

(十)

モラロヂー教育の時事に對する方針は極めて穩和にして決して政治的運動若くは改革的運動を許されぬのであります。即ちモラロヂー教育に在りては、たとひ國家の政治にせよ、官衙會社若くは其他の團體の行政にせよ、官公吏若くは一般簡人の不法行爲にせよ、之に對して單なる正義の觀念によりて公に之を批評し且つ之に反抗する如き事は許されぬのであります。單なる正義の觀念と行爲とは必ず他と衝突するものなれば破壊的であります。斯かる場合、最高道德にては必ずや慈悲寛大自己反省の精神を以て之に對し、先づ斯かる事を眼のあたり見聞する自分の不徳を反省し、次に自己の徳を進むる事を務め更に其不合理な方面に向つて徐々に良い機會があつたならば其當事者の精神を最高道德にて開發する事に務むるのであります。故に是れは建設的であります。決して公に他の不正若くは不合理を批評し若くは攻撃する事をば許されぬのであります。最高道德は神の慈悲の上に立てる正義でなくては之を認めぬのであります。即ち聖人の教に所謂『易』の『元亨利貞』の貞貞は神の慈悲の上に立つてはなりません。元亨利貞とは貞なる時には大單なる正義は所謂硬直であるので『易』の『亢龍有悔』ぬ。元亨利貞とは貞なる時には大單なる正義は所謂硬直であるので『易』の『亢龍有悔』に通じて幸福と爲ると云ふ事

の亢に當るので高慢、横暴、慾望などと共に自他の安心、平和及び幸福は實現せず後悔に及ぶのであります。此慈悲と正義との調和を人心に扶植するので聖人正統の教育であります。而して現代を救ふ教育の原理は正に茲に在るのでござります。『眞』は人類進化の根本原理に含みます。『元』は人類退化の原理を含みます。

(七) 當専攻塾規則書に當専攻塾にては入學にも卒業にも學科試験を行はぬとしてあります。そこで淺薄な尋常人は直ちに之を誤解してそれでは當塾からは劣等生ばかりが出づるであらうと思ふものあらむも、さうではないのです。當専攻塾にては各學生は至誠、慈悲、眞實の父母にも勝る塾長以下各講師の寬嚴宜しきを得たる監督の下に日夜自己の精神作用と行爲とを實地に試験して進む仕組に爲つて居つて、それが眞に實行さるゝのでありまして、それを累積した結果が自然修業年限内に於ける其の人の成績と爲るのであります。そこで是れは其箇人々々の自然の優劣でありますから、一時的に單に人爲的に學科のみの試験を行うて其人物の優劣を定むるより却つて極めて確實に各人物の總成績が得らるのであります。是れが天地の法則に適うた試験であり、聖人の御教に適うた試

験であり且つ所長博士が一生を通じて自己を試練し且つ今日まで幾多の人々を指導して來た所の人生の眞の最高試験法であるのです。

元來、聖人正統の學問(The Orthodox Learning)である所のモラロヂーの智識(Wisdom)は神若くは聖人の智識(Knowledge)であるので、人間の利己的本能から出た所の智識(Intelligence)でないのですから、それは皆聖人正統の道德たるモラロヂーに所謂最高道德の基礎と爲つて居る智識であるのです。そこで此正統の智識一體の教育に於ては其モラロヂーにて所謂最高品性の中に其人の祖先以來の種々の徳も正統の學問も正統の道德も含まれて居るのです。されば當専攻塾に入塾せる塾生諸氏は其智徳の程度には差ありとするも皆各、最高品性と最高人格とを具する所の獨立の人にして、他人から監督せられ若くは試験せられて生きて行くに云ふやうな種類の人間とは異なるのであります。是れがモラロヂー教育の原理であるのです。故に特に學科の形式試験のみを行つて其各人の優劣を定むる如き侮辱を最高人格を造らうとして居らるゝ人々に向つて行ふ事は避けたいのであります。殊に單なる利己的本能に本づく異端の學問や智識を試験

して其優秀者を社會に出したりとて社會は之が爲に利する所なく、却つて今日の如くに危険思想や智能犯の増加を示し且つすべてに互りて社會の不安を増加するに至る次第であります。

元來人間的智識を偏重することは聖人の教に反する近世教育の弊であるので、西洋にても卓越せる偉人は決して人間の道徳心及び道徳行爲を無視することはないのであります。英國著名の戯曲家シェイクスピア (W. Shakespeare) の『同量報酬 (Measure for Measure)』と云ふ戯曲の第一幕第一場に『天が我々を使用するのは我々が松明を使用するのと同じである (Heaven doth with us as we with torches do.)』と云ふ事があります。是れは即ち人間の存在の價値は天功を助けて自分以外のものを利するに在りとの事でもあります。サムエル・スマイルズ (Samuel Smiles) は其名著『自助論 (Self-help)』の首に『天は自ら助くる人を助く (Heaven helps those who help themselves.)』と申して居ります。即ち天の神様是れは自然の法則と申しても宜しい、此自然の法則は自己自身の眞の永久の利益を圖る人間を助くると申すのであります。自己自身の眞の永久の利益を圖る人を助くると申す事

はシェイクスピアの所謂「松明」の役目は松明が松明自身を照らす爲でなくして松明が他を照らして之を利するに在り」と申した事に當るのであります。他を利する事が自らを利する事であつて人間の努力の貴い所は他を利するにあるのです。自分の努力を一切自分の利益にのみ使用する現代人の努力の如きは天地の公道に反するものにて、却つて自己を害するものである事を示せるものであるのです。而して斯かる事は皆夙に聖人の教説に明かなる所であります。ば「法華經」序品にある「遠く得己利」の類なり

そこで物質を以て形式的にいろ／＼の學校を建つるとか學資を貧生に支給するとか若くは學科試験の優等生を賞與する如き事は何れも各一つの善い事ではありませんが、是れが聖人正統の學問でなく最高道徳でない場合にはさうして出來上つた所の學校や箇人が國家や社會を利益するかどうか分らぬのであります。中には却つて其知識にて悪い事をする人もありまじやう。そこで聖人正統の學問及び道徳による教育にては一時的に單なる學科試験を行つて其優劣を争はしむる如き事をば致しませぬ。聖人正統の教育は必ず其最高品性及び最高

人格を以て自己の安心、平和及び幸福を實現せしめ、其結果として國家及び社會を利益するやうに學生の教養を致すのであります。

(三) 要するにモラロヂー教育の方針は各人をして實質的に安心、平和及び永遠の幸福を實現せしむる方法を教養するに在り。故に先づ人間の實生活に對して不合理なる要素たとへば所謂自由、平等、博愛の思想の如きを含める現代の精神諸科學を聖人正統の學問により之を訂正して其實生活を指導し、次に其實生活に適切に必要を感じざる所の諸學科を省き、塾生をして主に外國語の如き基礎學の智識を涵養せしめ、以て他日實務に就くにせよ、學問研究に進むにせよ、自修研鑽の實力と社會生活の便宜とを得せしむる事を目的と爲す。若し夫れかくの如くにして最高品性を有し、外國語の會話に長じ而して迅速、確實、親切、安全の活動を爲す人士の輩出するに至らば、我が國各方面の事業界の活動躍進は之を掌カチコロに指すが如くならむ。外交、貿易、移民等對外關係の事業の如き能く外國人をして信服せしめ、其相互の國利民福をして今日の百千倍に達せしむるを得べし。右に附き修學の方法は大體自修研究を主とするものなるが、殊に研究所に於ける助手はすべて其自修研鑽

の累積によつて其正當なる進達を期するのである。斯くて聖人正統の眞の大學教育の精神に依りすべて研究所并に專攻塾に於ける研究生をして至誠、慈悲、沈著、安泰の精神の上に學業を勉めしめ、在塾幾年を経るもさしつかへなく眞に自ら人間として(Self)立ち得る自信を生ずるまで鍛鍊修養歲月を重ねて大人格を完成せしむる方針なり。而して研究生をして悠悠年月の推移を忘れて學問の研鑽に没頭し以て其出藍の大器を成熟するに至らしむ。英國ケムブリッジ及びオックスフォードのフロー（Fellow or Fellowship）の制度をも併せ考ふべし。而して斯くの如くにして其出藍の大器を成就せる所の學生は遂に正しくモラロヂー創業者の遺志を繼ぎ現代に於ける全世界の人心を開發且つ救濟して全人類の不安、懊惱の除去に對して至誠努力を盡す所の偉人と爲るべし。而して研究所并に專攻塾は正に斯かる偉人の輩出せむ事を期して已まざるものなり。

(三) 追つて當研究所内に商工見本品館を建設し會員の製造販賣する商工品を始め、すべて必要な世界商工業品の見本を陳列し以て内外人の參考に供する豫定であります。而して右實現の曉には眞に最高道德の實行を爲す篤志家の製品、商

品をば之を外國に紹介する勞を執るやうな事にも爲りましやう。

(四)斯かる人格大成の智徳一體の教育は黃塵萬丈の都會よりは空氣、日光、山水等自然美を具備せる郊外の風光明媚なる廣原地に於てするを可とするを以て特に地を東京郊外にトしたり、斯くて當專攻塾は千葉縣東葛飾郡小金町常磐線北小金驛の東南の林間に在り、上野驛より約四十二分而してモラロヂー研究所の隣地に接し、研究所と共に鬱蒼たる森林に包有せられ、水、空氣共に清淨にして天然の地形最高、道德教育と相俟つて人間の胸襟を快濶に導き自ら最善最上の大人格を完成するに適合す。且つ當專攻塾の所在地は氣候、風土共に四時人體に適すれば寒暑と雖も避寒避暑の必要な理想郷なり。

英國にて森林地に存在する有名なるウヰリントン・カレンヂ (Wellington) の景勝と勞髡たる趣ありと稱せらる。

(五)今回道德科學研究所本部の移轉擴張并に道德科學專攻塾の創立に關しては道德科學研究所職員并にプロヂューテイ・ソサイエテ (Producty Society, 報恩協會) 會員一同の全く陛下に對し奉る奉仕心より成立せるものなり、即ちすべて多大なる設備

上の費用等一錢も外部の寄附によらず、先づ第一は年來本研究所所長廣池博士自身の研究費として貯蓄せる所の資財を提供し、次に第二に其基礎の上に多年博士の薰陶を受けて今日あるを致せる幾多の實業家并に近年モラロヂー講習會にて養成せられたる所の篤志家にして博士の高恩に報いむとする人々の至誠心より奉仕せる所の淨財を加へ、以て斯くの如きを致して居るので、將來遂に道德科學大學の開設を見むとする次第なり。

女子教育に對する當研究所の方針

九六

- (一) 高等女學校を卒業し若くは半途退學せる女子高等小學卒業者をも含むにして尙ほ高等の學術を修め若くは高等の道德的修養を爲さむとするものは當專攻塾の本科別科何れに入塾するも必ず其目的を達成するやうに教養すべし。
- (二) 當專攻塾の別科は入學の資格をも問はず且つ僅々三箇月半にして最高道德の眞髓を究めしめ科學的に階級の原理、傳統の原理、順應同化の原理を體得せしむるものなれば、婦人教育には實に特に適當にして貞淑無比の賢母良妻を造り出す事を得るものなり。故に近頃世間にて囂々する所の花嫁學校としては當專攻塾は實に逃へ向きに出來たる好適の教育場なり。
- (三) 從來の因襲的道德近くは封建時代の武士道の類にては婦人に對して忍從どんな事があつても之を顔にあらはさずと云ふ教を強制したのですが、これでは形の上には多少の平和を維持し得るも第一は其婦人の精神を鬱結せしめて其健康を害せしめ、第二之が爲に子供が弱く、第三は結局其良人の不幸と爲るのであります。最高道德は天地自然の法則

を以て人心を開發して人間各自の祖先以來の宿縁を自覺せしめ、男女共に慈悲寛大自己反省の精神を以て事に當らしむるのでありますから如何なる家に入りたる婦人にも心身共に明朗健全にしていつまでも續けてたとひ悪い夫でも之を内助して進むことが出来るのであります。故に花嫁教育はモラロヂー教育に依るほど完全なものは無いのであります。是れ數年以來モラロヂー講習會に於て其講習を受けたる婦人の成績に徴して確實なる事實であります。今日の婦人教育が自由放縱なる箇人教育に墮したものは全く前の忍從教育の缺陷に對する反動であります。

(四) 本科は英語の時間多ければ外交官若くは貿易商の家庭に入り若くは海外に進出せむとする婦人は實に其目的に適當する學校なり。又普通の家庭にしても婦人にして外國の新聞雜誌、書籍、小説等を読み得且つ外人と會話を交ふるを得ば、生涯の幸福甚大にして其父兄若くは良人を内助する事も多大なる事あるべし。又子供を育つる上には母親として外國語を語り且つ讀む力を有する事は實に偉大なる効力あり。

(五) 當專攻塾にては女子教育に對して深く之を重んじ其精神教育は勿論形式教育に於ても本科別科共に禮儀は勿論實用料理法裁縫等の實習より萬事實際有用の婦人を造る事に留意し且つ塾内に於ても寄宿舎浴室等すべて之を嚴に男子に別ちて甚大なる注意を拂へり又勿論通學をも許可す。

(六) 右に付き前途の安心幸福を希はるゝ心ある方々は能く當專攻塾の教育の精神を書籍并に實地に就きて調査の上單に男子のみならず其一族の子女をも入學せしむべし。

以上

尙ほ右はすべて『道德科學の論文』其他モラロヂーの著書に詳なれば御不審ある御方は當該モラロヂーの著書を御參照ありたし。

(1) 尙ほ當學園は丘陵上の森林内に在り而して其森林は全部皆松樹にして滿山オゾンの氣を以て充たされたれば當學園に入る人々は一面最高道德によりて精神治療を爲し一面酸素によりて生理的治療を爲し心身共に更生の幸福

を得べし。

(2) モラロヂーの教養を受けて之を實行するものは單に新たに好運命を開き家運萬世不朽の幸福を得るのみならずさしあたり身體弱きものは必ず無病強壯に爲り老年の御方は青年の如くに身體軽く爲り前途に大なる希望を生じ必ず長命を得るに至る是れ皆當研究所所長博士の自ら行ひ自ら生きて今日あるを致せる生きたる健康長壽法なり而して萬人皆必ず行ひ得る方法であり且つ皆必ず好結果を得る方法である。

以上

第十條 昭和十年十一月十日前内閣總理大臣内大臣海軍

大將子爵齋藤實閣下御臨塾の御挨拶

右同日當塾にては塾長より閣下を塾生并に來賓に御紹介あり。本科生第一總代英語にて閣下歓迎の辭を述べ、次に第二總代同じく英語にて伊エ戦争をモラロヂーの立場より批評して閣下の御高聽を煩はしました。閣下は實に英語の會話に堪能なりしを以て塾長は特にすべて生徒をして御挨拶を英語にて申し上げさせたのであります。當日閣下御來塾、先づ本塾の規模の雄大にして教室、講堂、寄宿舎等の秩序整然たるとモラロヂー圖書館の學術的なるとに感ぜられ、次に生徒の規律と外國語の上達とに感ぜられ、仍つて左の御挨拶を爲された次第であります。而して當日閣下は上賓館にて御晝飯を召上り塾長并に當塾講師宗伯爵以下御相伴致し夕刻御歸京遊ばされたり。

本日御當地へ出まして圖らずも皆様にお目にかかりました事は私の最も欣幸とする所であり、豫ねてより本校の設立を承つて居りました一度上りたいと思つて居りましたが色々雑事に囚はれて今日やうやく参りましたやうな次第で御座ります。本日廣池先生に御話を承り又今日御當塾の盛大なる狀況を拜見致しまして本當に愉快で喜びに耐へませぬ。廣池先生の御首唱のモラロヂーの事は根本的に眞に結構な事で御座ります。深く御研究の上御發表に爲り其御研究の上に於ては私も御内示を得た事もありました。乍併其後之を如何なる形に於て進行せしめらるるかと思つて居つたのであります。斯くの如く純學問に根據を置き而して其牢固たる學問的根據の上にモラロヂーを專攻する所の學校教育機關を設けて世界に打つて出られました事は眞に眞面目且つ堅實な御計畫でありまして、私の大いに敬服して止まざる次第で御座ります。誠に現代の世の中の有様を見まするに世界的にも内國的にも道德の缺如は非常に憂ふべき事であり、それが即ち今日世界の不安を來たし色々な事に行詰るやうに爲つて参つたのであります。是れが本當に道德を明かにして眞の道義の上に立脚して以てお互に朗かに進み得たならば此行詰りや不安を見ずに濟む事と思ひます。此點に於きましては私共將來に於ても廣池先生の學問的に專攻せらるる所のモラロヂーの御盡力に俟

たねばならないと思ひます。誠に此學校の發展は世界の道德の上に非常なる影響を持ち又貢獻する所大なりと思ひます。御承知の如く我が日本は今年、明年(一九三五年、一九三六年)の如きは非常なる危機に瀕すと云はれて居りますが、私共は危機とは考へないが眞に重大なる秋に臨んで居ると心配して居るのであります。其心配の主なる原因は日本人が日本自身を危くすると云ふやうな事を致してはならぬと心配して居たのであります。而して此心配は今日も全く除かれては居りませぬ。そこで日本が道德の上に立ちすべて穩健なる行動を執りましたならば他國から侵される事は無いと思ひます。そこで、つまりはこちらが良くなればよいのであります。此點から見ても道德教育の必要な事は明かであります。次に現在の狀態で日本又は各國共に困つて居る事は財政、經濟の方面に對し非常に苦しんで居る事であります。是れが即ち萬事輕々と動けない狀態にあるのであります。日本も御承知の如く百億圓近くの公債を背負ひ居るのであります。之を永久に續けて子孫に傳へる事は我々として忍びない事で御座ります。又此狀態を續ける事は眞に危険なる事であります。之を除く爲には國民各自の力を養つて國力を充實する事をせ

なかつたならば危機の有無に拘はらず困難を生ずると思ひます。是れは實に徹底した道德を行つて國力を充實せねばならない事であります。すべての事は道德が其根柢と爲つて居るのであつて道德を高くする事に依つて國の力を確實にし充實する事が出来るのであります。此處に居られる皆様方は深く此心持を持つて居らるる事と思ひます。甚だ簡單では御座りますが、私の思ふ所をありのまま申し上げて御挨拶に代へたいと思ひます。

(以上)

第十一條 聖人正統の教育たるモラロヂー教育の原理と

現今一般に行はるる教育の原理との區別

現今一般に行はれて居る所謂教育は學問、智識、技術、才能、遊戯術、各種の運動、護身術、
武道の類の類を指すので是れは皆形式的、物質的であるのです。

聖人正統の教にては『阿闍世王授決經』に『世界無有日月人民身中皆有^リ大光』とある如く我々の地球より見る所の日月は物質であつて、其光は明かなるも限りある力である。故に是れは傘一本にても其光を遮る事を得べし。然るに前第八條にある如く人間皆佛種を有するが故に、人間の精神を神の精神に同化させて之を磨けば皆大光を發したとひ如何なる障礙物を以てするも、萬里の外、萬年の末まで其光の覆はるる事はないのである。故に聖人正統の教は人間の精神を神の御心即ち天地の法則にて磨き、以て其固有の大光明を發揮さするに在ると云ふのであります。而して人間一たび斯くの如くに天地の法則に同化する事を得れば、學問、智識、技術、其他の如きは獨學にても自ら容易に之を習得する事を得るのであります。是れ既に古人

の實驗と私の實驗と共に疑ふ餘地なき所であります。此故に聖人正統の學問たるモラロヂーがすべての學問の精神的基礎學であり、其實質、内容を形造る所の最高道德は神の智徳を包容してすべての智識、信仰、道德の基礎に爲る道德であると申すのであります。

モラロヂー教育に關する基礎的重要書類(終)

昭和十一年六月二十五日 印刷
昭和十一年六月三十日 發行

非賣品

著作者兼發行者 廣池千英
東京市澁橋區諏訪町二二〇番地

印刷者 古橋照太郎
東京市京橋區築地三丁目十番地

發行所 千葉縣東葛飾郡小金町 道德科學研究所
電話 小金七番

不許複製

印刷所 東京市京橋區築地三丁目十番地 株式會社 東京築地活版製造所

終

